



国立公文書館	
分類	
	④ ⑤
配架番号	3 A
	14
	36-20

序

本書ハ兵器ノ取扱ニ關シ教育訓練上必要ト認ムル事項ヲ  
勉メテ平易ニ解説スル爲從來當校ニ於テ研究セル結果ヲ  
蒐録セルモノナリ固ヨリ推敲ノ餘地ナキニアラザルモ各  
隊教育ノ現況ニ鑑ミ參考資料トシテ取急ギ上梓シ之ヲ頒  
ツコトトセリ

昭和十三年六月

陸軍歩兵學校長

三宅俊雄

複製品  
CINCPAC-CINCPAC Item # 4247

国立公文書	
分類	
配架番号	36-2

めくれず

# 十一年式輕機關銃取扱上ノ參考

## 目次

總說	一
第一篇 構造機能	三
第一章 銃	三
第一節 銃身	三
第二節 放熱筒及附隨品	四
第三節 尾筒及附隨品	六
第四節 銃尾機關	四
第五節 裝彈機關	四
第六節 銃床及附隨品	六
第七節 脚	六

第八節 銃尾機關ノ機能.....元

第二章 豫備銃身及屬品.....壹

第一節 豫備銃身.....壹

第二節 屬品.....壹

第三章 彈藥盒、彈匣、彈藥.....壹

第二篇 分解結合.....四

通則.....四

第一章 普通分解及結合.....四

第二章 特別分解及結合.....五

第三篇 取扱及手入.....五

第一章 日常ノ手入及取扱上ノ注意.....五

第二章 射撃上ノ注意.....五

第一節 故障ノ豫防.....五

附 録

十一年式輕機關銃三脚架乙

總 說

第一章 構造機能.....七

第二章 取扱及手入.....八

# 十一年式輕機關銃取扱上ノ參考 目次 終

# 十一年式輕機關銃取扱上ノ參考

## 總 說

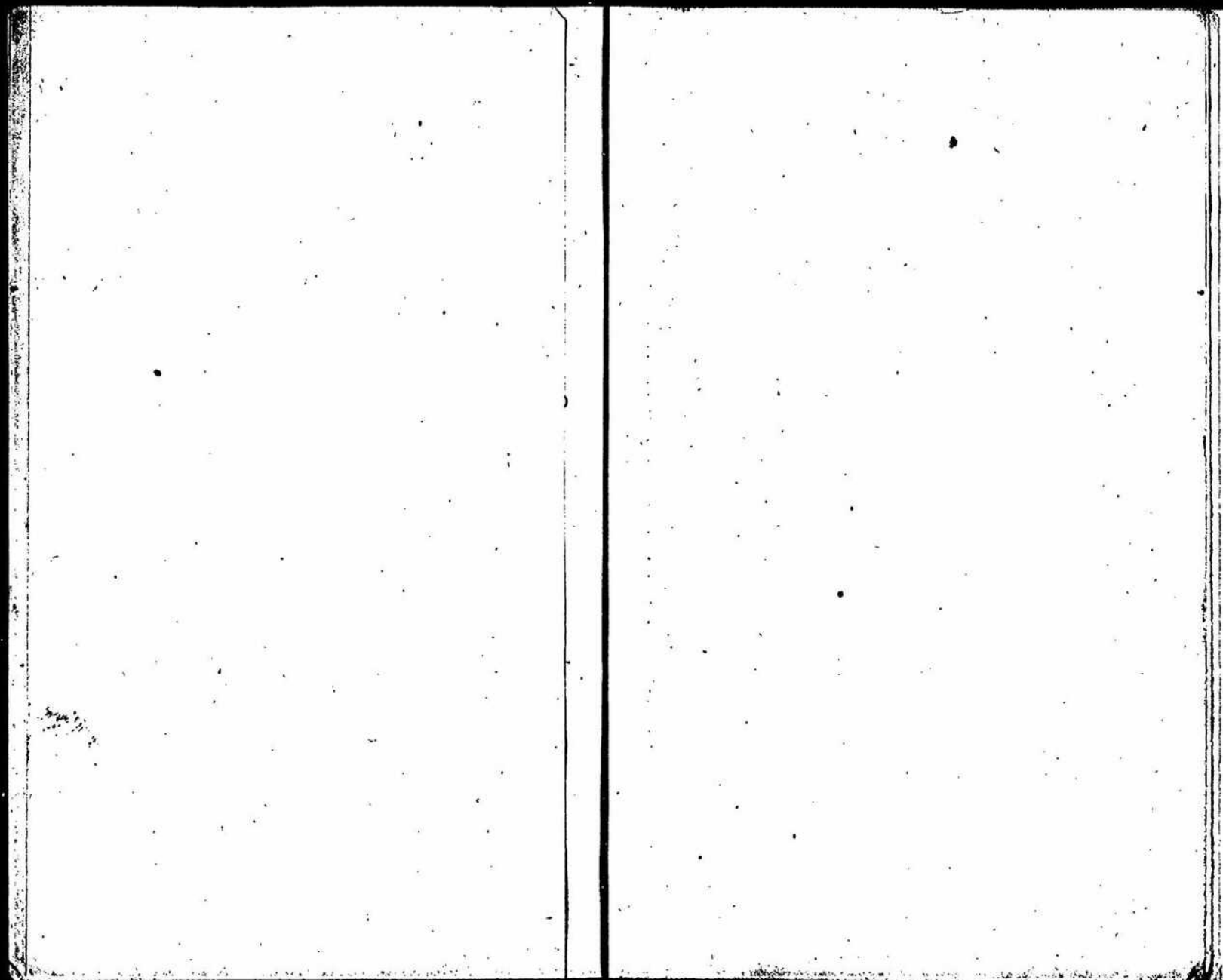
第一 十一年式輕機關銃ハ發射ノ際生ズル火藥「ガス」ノ一部ヲ利用サル自動裝置ニシテ裝彈ニハ裝填架ヲ用フ

第二 本銃ハ三脚架乙ニ裝シ各種姿勢ニ應ゼンメ得

第三 必要ナル諸元ノ中一部ヲ舉グレバ左ノ如シ

銃ノ全長	一米一〇樞
口 徑	六 耗 五
射擊姿勢ニ於ケル兩肘ト踵鐵ノ距離	約八二樞 (高姿勢) 約一六五樞 (低姿勢)
銃 身 高	三三 一六 樞
銃ノ重量	約一〇 砵

總 說







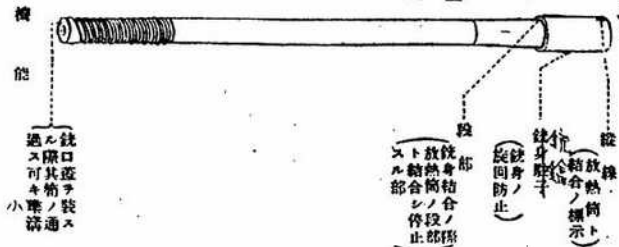
第一篇 構造機能

第一章 銃

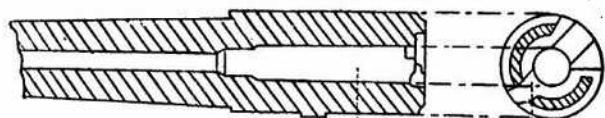
第一節 銃身

第四 銃身 彈丸ニ「ガス」  
 壓ヲ與ヘ之ヲ發射スル主  
 要部ニシテ外部前方ニハ  
 螺狀溝ヲ刻シテ放熱面ヲ  
 成シ黑色に錆染ス  
 空包銃身ニハ上面前端ニ  
 空ノ字ヲ刻シ腔綫ナシ  
 (但實包銃身ヲ改修セル  
 モノハ此限ニアラス)

構造機能

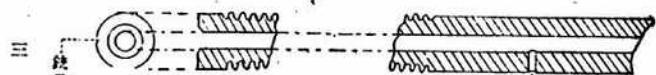


薬室附近断面



送弾部 下 薬室 頭部筒

ガス漏孔及銃口附近断面



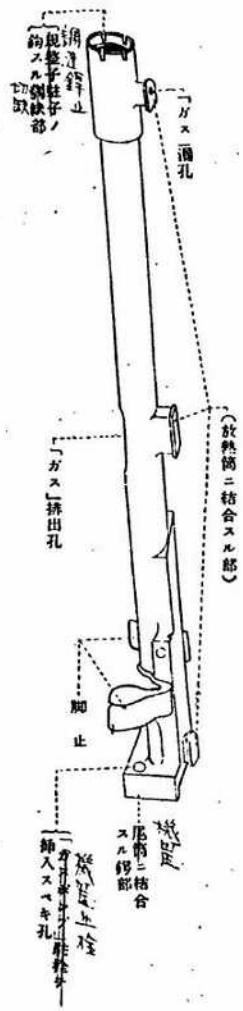
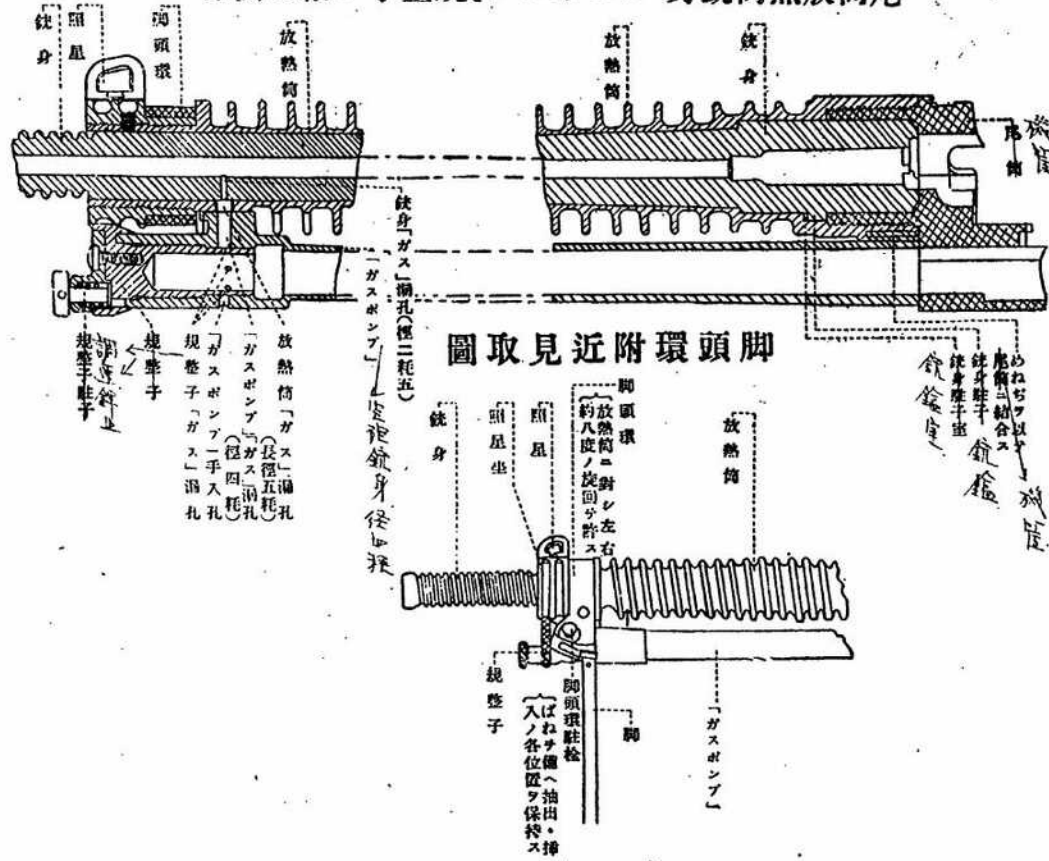
銃口蓋ヲ裝スル小溝

ガス漏孔  
 實包銃身  
 徑二・五  
 耗耗





尾筒放熱筒銃身ガスポンプ調整子ノ結合關係



第五 放熱筒及附隨品左ノ如シ  
放熱筒  
附隨品「オネポン」ガスポンプ

第六 放熱筒 放熱筒ハ内腔ニ銃身ヲ收容シ外面ハ放熱面ヲ形成ス前部ニハ照星坐脚頭環ヲ下面ニハ「ガスポンプ」ヲ裝著ス

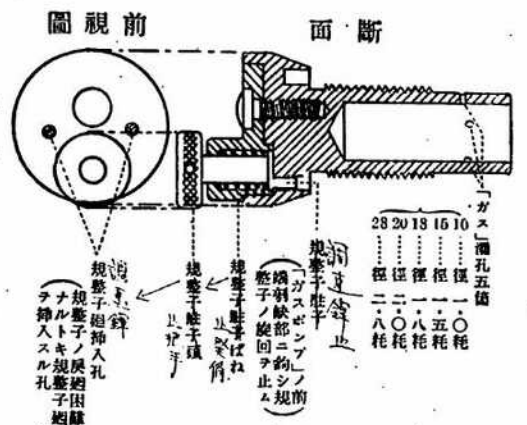
第七 「ガスポンプ」火薬「ガス」ノ一部ヲ受ケ活塞ノ後退運動ヲ發起セシム

十一 年式輕機關銃取扱上ノ參考  
第二節 放熱筒及附隨品



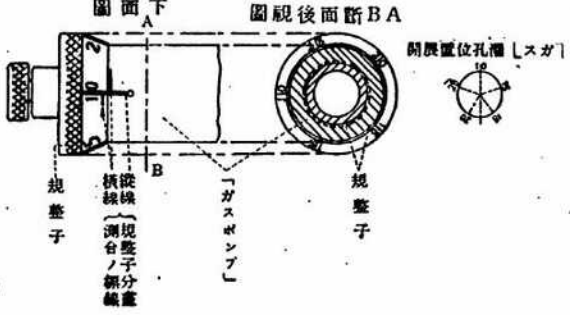
調 整 規  
子 整 規

構  
造  
規  
則



「ガス」 ポンプノ 調整ノ 為ニ用 テシム	「ガス」 ポンプノ 調整ノ 為ニ用 テシム	「ガス」 ポンプノ 調整ノ 為ニ用 テシム	「ガス」 ポンプノ 調整ノ 為ニ用 テシム	「ガス」 ポンプノ 調整ノ 為ニ用 テシム	「ガス」 ポンプノ 調整ノ 為ニ用 テシム
28	20	18	16	10	5
徑	徑	徑	徑	徑	徑
二	一	一	一	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇
八	八	五	〇	〇	〇
耗	耗	耗	耗	耗	耗

規 整 子 用 之 ガ ス ポンプ ノ 係 關



五

第八 規整子 各種「ガス」ポンプノ調整ニヨリ活塞頭ニ及ス「ガス」ポンプノ増減シ其運動ヲ調整ス



十一年式輕機銃銃取上ノ參考

第三節 尾筒及附隨品

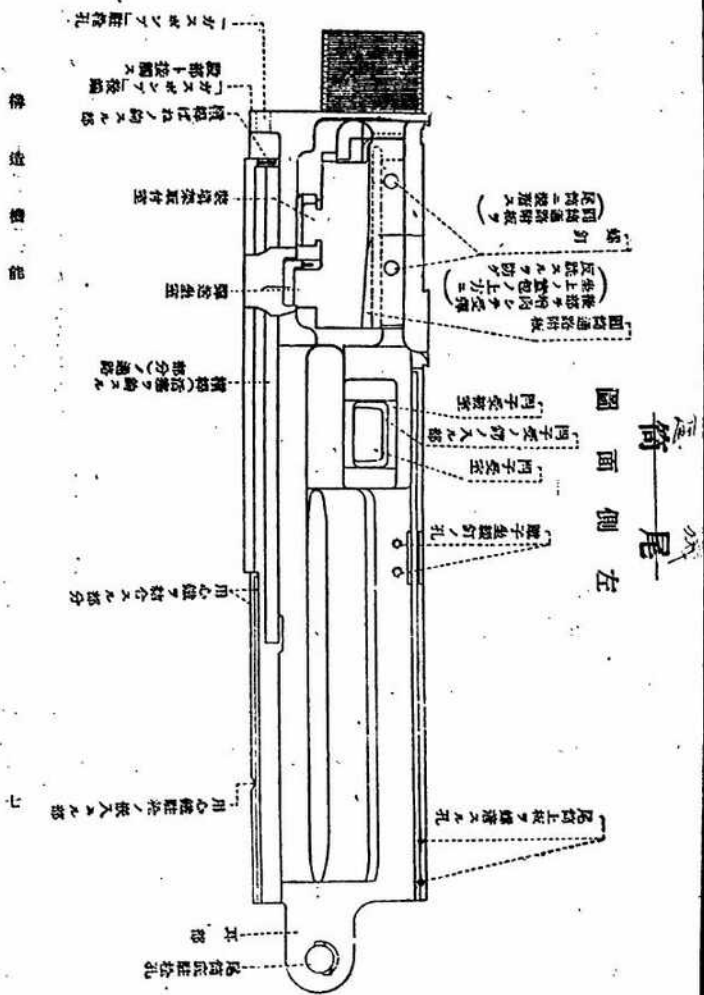
第九 尾筒及附隨品左ノ如シ

尾筒

附隨品  
尾筒底  
照尺  
油槽  
鐵床ヲ結合ス

第十 尾筒 銃尾ノ諸機關ヲ包藏シ其運動ノ準規タル部ニシテ外部ノ前端ニ放熱筒ヲ結合シ後端ニ尾筒底ヲ後端下部ニ

鉄床ヲ結合ス

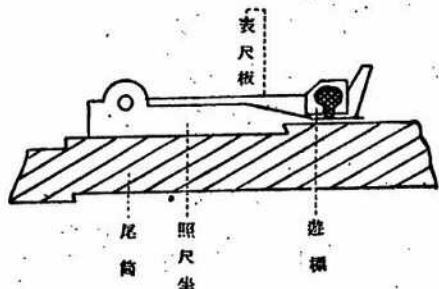


めくれず



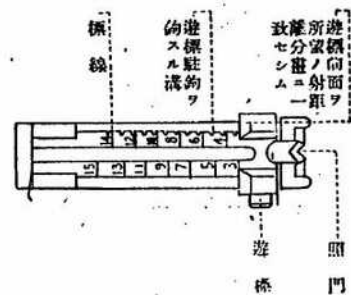


圖面側左

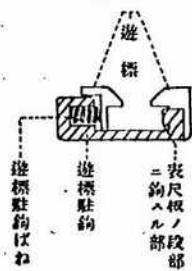


標  
遊  
標  
的

圖視上

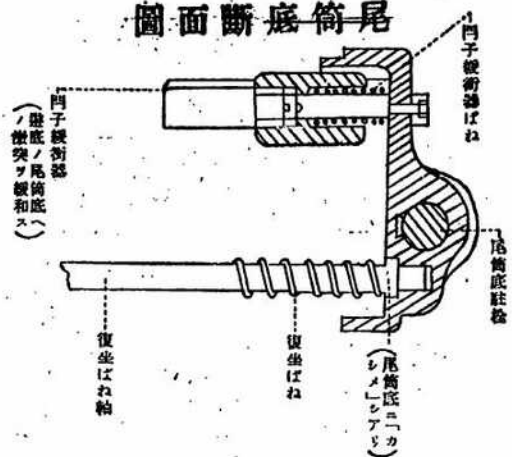


圖面斷標遊



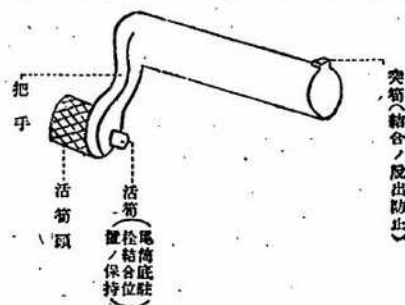
第十二 照尺 照尺板遊標及照尺ばねヨリナリ所望ノ射距離ヲ裝スルノ用ニ供ス

銀伎  
圖面斷底筒尾



第十一 尾筒底 尾筒底駐鈎ヲ以テ尾筒ニ結合シ其ノ後端ヲ閉塞ス  
十二年式輕機銃銃取扱上ノ參考

栓止  
栓駐底筒尾

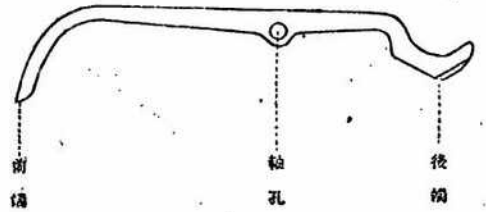


一〇

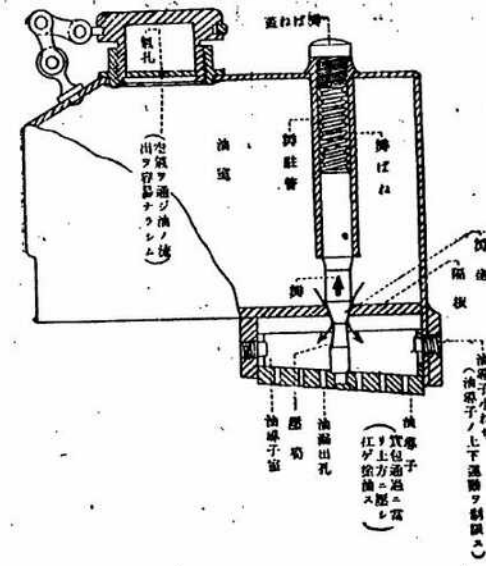


第十四 隙子 前端及  
 後端ハ共ニ尾筒ノ相當  
 窓内ニ進入ス活塞後退  
 スルヤ後端ハ活塞隆昇  
 部左側上方ノ斜面ニヨ  
 リ外方ニ壓セラレルヲ  
 以テ前端ハ内方ニ突入  
 シ藥莖ノ側面ヲ衝キテ  
 之ヲ蹴出ス又活塞前進  
 スルヤ前端ハ圓筒左側  
 縱溝ニテ外方ニ壓セラ  
 ルヲ以テ後端ハ内方  
 ニ突入ス

構造

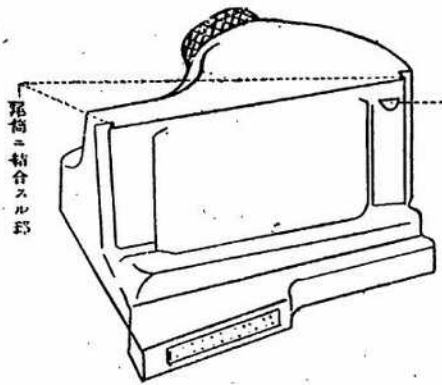


一三



第十三 油槽  
 十一年式輕機銃銃取扱上ノ參考  
 内部ニ油ヲ收容シ實包ニ塗油スルノ用ニ供ス其ノ全油量ハ約〇、〇五五立ニシテ概ネ二千發ノ射撃ニ堪  
 フ

圖取・見 面 下



一一



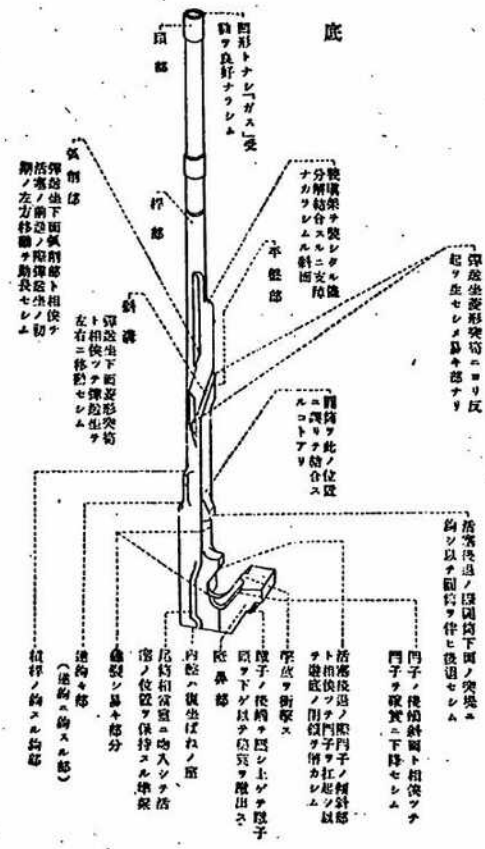


十一年式輕機銃銃取上ノ參考

第四節 銃尾機關

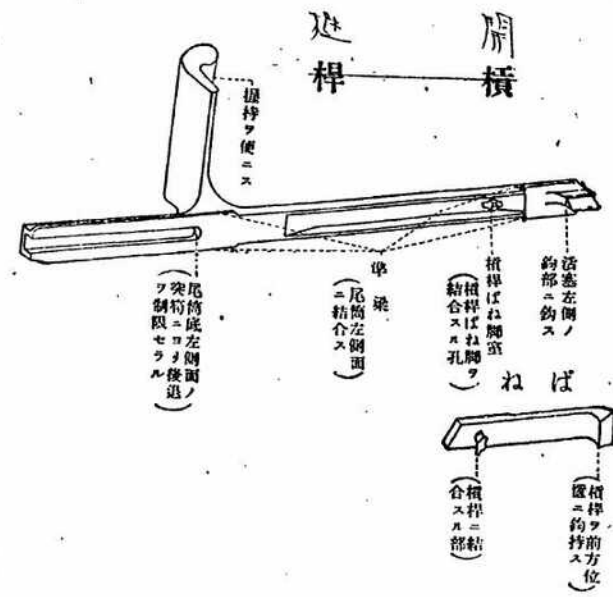
第十五 銃尾機關ハ左ノ部品ヨリ成ル

活塞  
復坐ばね  
槓桿  
圓門  
彈子筒  
抽筒  
子ばね  
遊  
第十六 活塞  
火  
蔡「ガス」ノ壓  
力ヲ受ケテ後  
退シ復坐ばね  
ノ彈力ヲ受  
ケテ前進シ遊  
底ノ開閉及送  
彈作用ヲナス



第十七 槓桿 準梁ヲ以

テ尾筒左側面ニ結合シ手  
力ヲ以テ活塞ヲ後退セシ  
ムルモノナリ

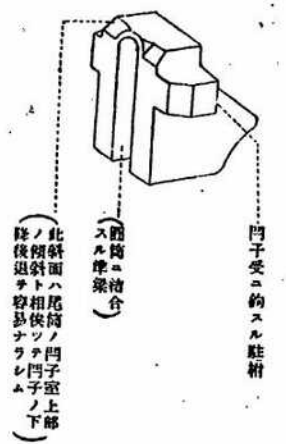


機銃機能

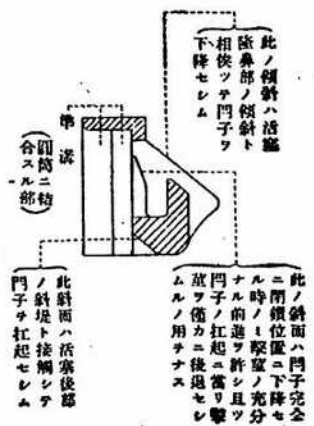


構造圖

見取圖



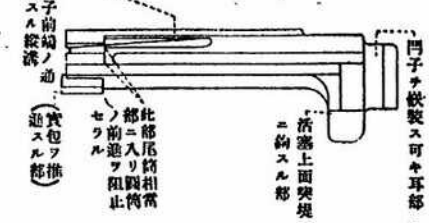
断面圖



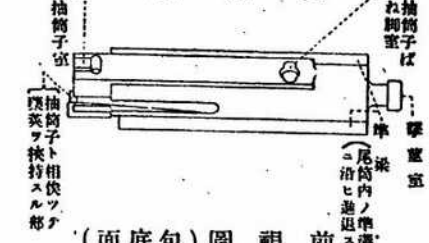
一七

第二十 門子 圓筒ヲ閉鎖ノ位置ニ確保スルモノニシテ其内部ノ準溝ニ依リ圓筒ニ結合ス

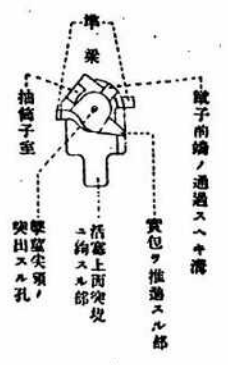
左側面圖



上面視圖



前面視圖(包底面)



十一年式組換銃取扱上ノ參考

第十八 復坐ばね 螺絲ばねニシテ活塞ノばね室内ニ挿入シ後退セシ活塞ヲ前進セシムルノ用ヲナス

第十九 圓筒 銃身後端ヲ閉塞スルモノニシテ室内ヲ擊空室トシ後部ニ門子ヲ結合スベキ耳部ヲ設ク

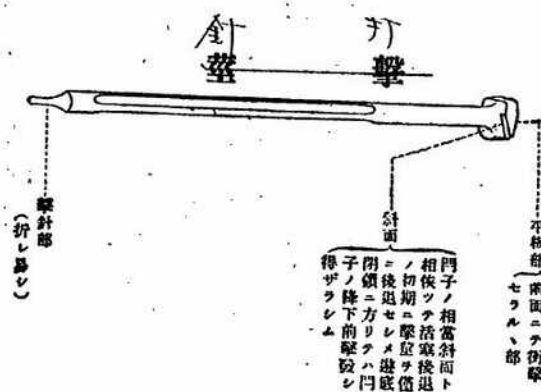
兩側ニハ準梁アリ尾筒内ノ準溝ニ沿ヒ進退ス

一六

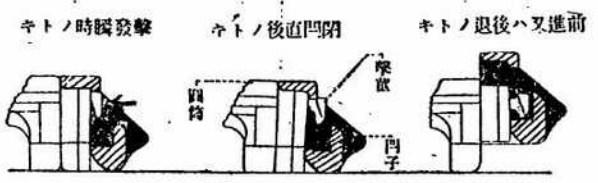




第二十一 擊 十一 年式 機關 銃 取 扱 上 ノ 參 考  
 擊 針 部 尖 端 ヲ 以 テ 雷 管 ヲ 衝 撃 シ 發 射 セ シ ム



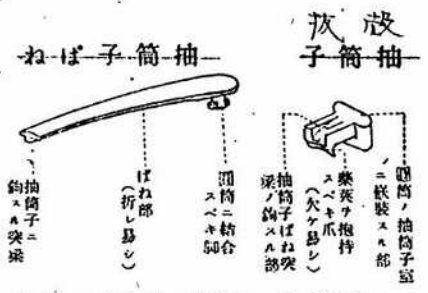
圓 筒 子 擊 擊 關 係



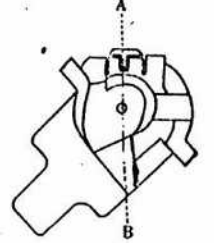
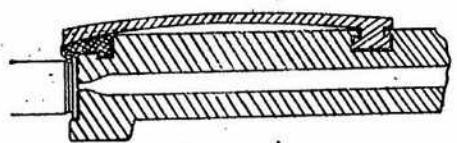
一 八  
 門 子 ハ 上 方 ノ 位 置  
 ヲ ア リ テ 擊 針 ハ 平  
 板 部 前 方 斜 面 ト 門  
 子 ノ 相 當 斜 面 ニ コ  
 リ 後 退 ノ 位 置 手 保  
 持 ス  
 門 子 ハ 降 下 シ 擊 針  
 ハ 前 進 シ 得 ル 空 隙  
 ト ナル  
 活 塞 隆 鼻 部 前 面 ヲ  
 コ リ 衝 撃 セ ラ レ 擊  
 針 前 進 ス

第二十二 抽 筒 子 及 同 ば ね

抽 筒 子 ハ 爪 部 ヲ 以 テ 藥 夾  
 起 縁 部 ニ 鈎 シ 圓 筒 後 退 ニ  
 際 シ 藥 夾 ヲ 抽 出 ス ル ノ 用  
 ヲ ナ ス  
 抽 筒 子 ば ね ハ 後 端 ノ 脚 ヲ  
 以 テ 圓 筒 ニ 結 合 シ 頭 部 ヲ  
 以 テ 抽 筒 子 ヲ 同 空 ニ 壓 著  
 ス



抽 筒 子 ノ 藥 夾 抱 持 要 領 圖

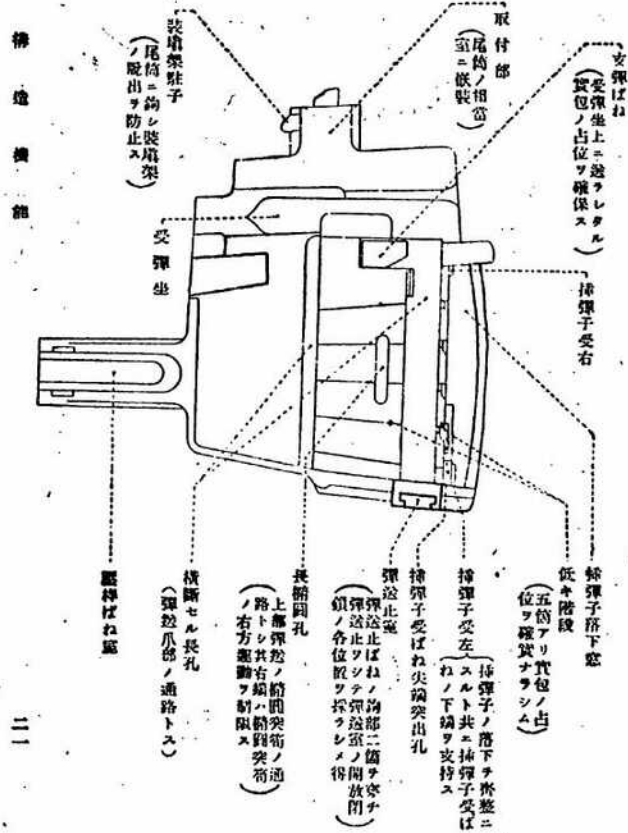


機 造 機 能



第二十四 裝填架 實包ヲ收容シ之ヲ藥室延長上ニ送ルノ用ヲナスモノニシテ上部ハ彈倉ヲ下部ハ彈送室ヲ形成ス

彈 架  
圖 面 平 架 填 裝

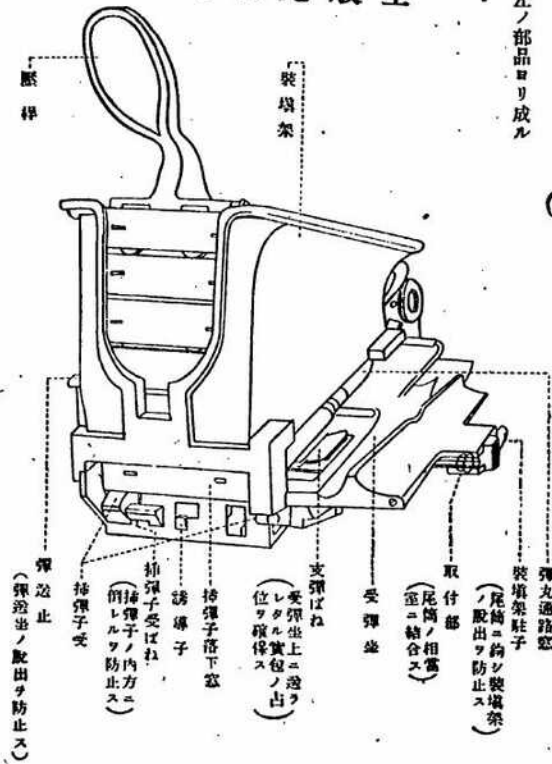


第二十四 裝填架 實包ヲ收容シ之ヲ藥室延長上ニ送ルノ用ヲナスモノニシテ上部ハ彈倉ヲ下部ハ彈送室ヲ形成ス

第二十三 裝彈機關ハ左ノ部品ヨリ成ル

裝 填 架  
壓 桿  
彈 送 坐  
下 部 彈 送  
上 部 彈 送

圖 取 見 般 全



第二十三 裝彈機關ハ左ノ部品ヨリ成ル

十一年式輕機關銃取上ノ參考

第五節 裝彈機

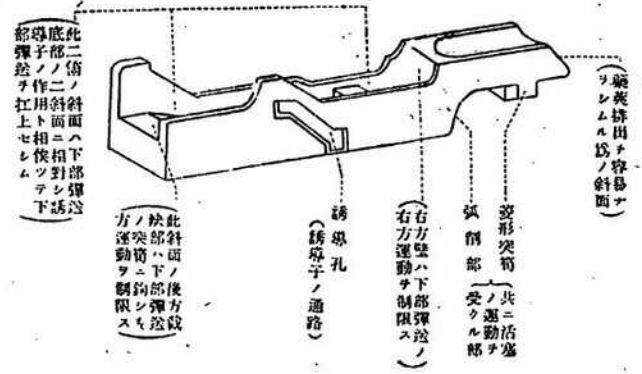
二〇



第二十六 彈送機 裝填機

上部彈送及下部  
彈送ヲ重疊結合  
シ裝填架彈送室  
内ニ於テ左右ニ  
運動シ彈送止ニ  
依リ脱出ヲ防止  
セラル

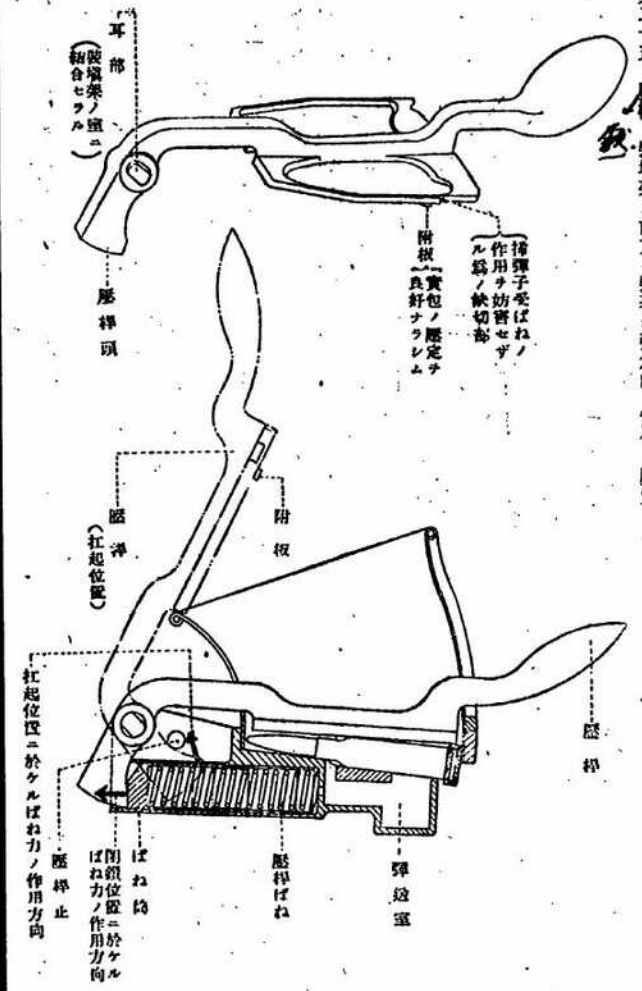
構造機



二三

第二十五 壓彈 裝填架ノ前方ニ裝著シ彈倉内ノ實包ヲ壓定スルノ用ヲナス

十一年式輕機關銃取扱上ノ參考

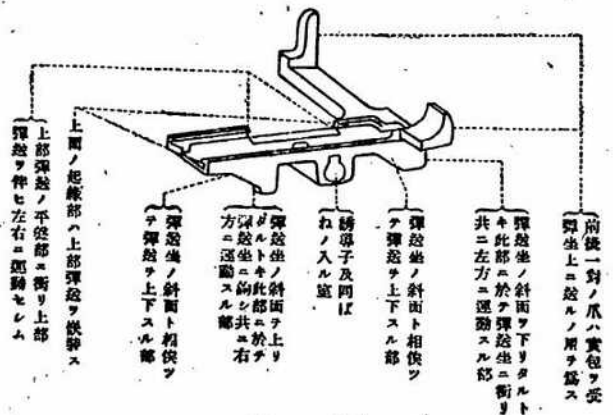


二三



十一年式輕機關銃取扱上ノ参考

第二十七 下部彈送  
 彈送坐ニ嵌裝セラ  
 レ上面ニ上部彈送  
 ラ裝シ共ニ送彈ノ  
 用ヲナス後面ニ誘  
 導子及同ばねヲ挿  
 入ス誘導子ハ裝填  
 架方形窓ト相俟テ  
 テ下部彈送ヲ彈送  
 坐ニ對シ上下セシ  
 メ數テ彈送坐ト下子  
 部彈送ヲ結合ス

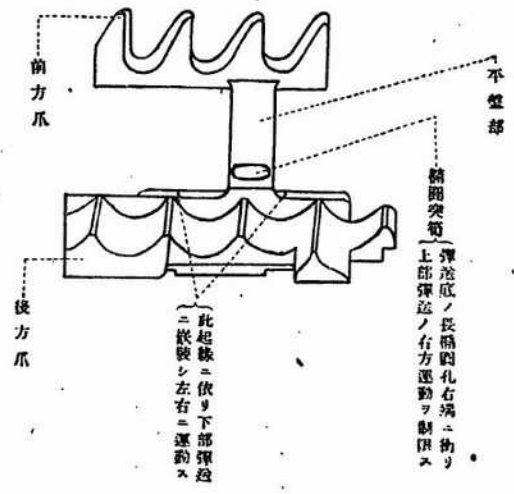


誘導子



二四

第二十八 上部彈送 下部彈送ト共ニ送彈ノ用ヲナス



構造機能

二五



十一年式輕便鑄鐵取扱上ノ参考

第六節 銑床及附隨品

第二十九 銑床及附隨品ハ左ノ部品ヨリ成ル

銑床

- 用心鐵
- 引鐵
- 逆鉤
- 安全栓
- 附隨品
- 床尾板

第三十 銑床 木製ニシテ前端ニ用心鐵ヲ嵌装シ後端ニ床尾板ヲ附シ尾筒ニ結合シ握鉄ノ用ニ供ス右側面ニハ負革茄子環ヲ鉤スル環ヲ取付ク

第三十一 用心鐵 後方ニ銑床ヲ挿入シ上面兩側準梁ヲ以テ尾筒ニ結合シ内部ハ擊發諸機關ヲ收容スル室ヲナス

三十二 引鐵

擊發ニ方リ食指ノ力ヲ逆

鉤ニ傳フルノ要具ナリ

第三十三 逆鉤及同ばね

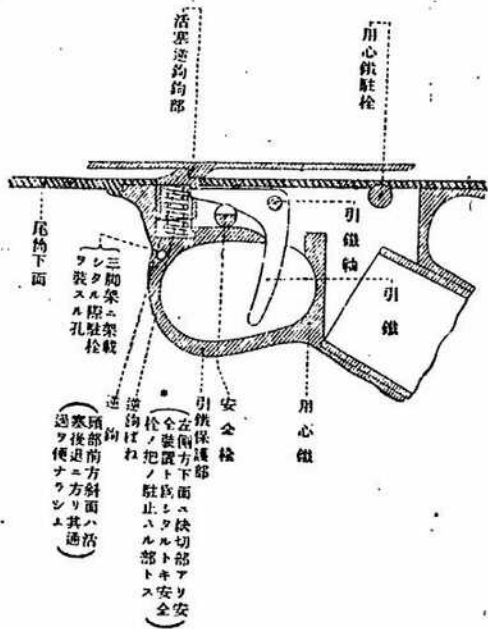
頭部ヲ常ニ尾筒下室内ニ

突出セシメ活塞ヲ後退ノ

位置ニ保持スルノ用ヲナ

ス

用心鐵引鐵逆鉤安全栓及活塞ノ關係

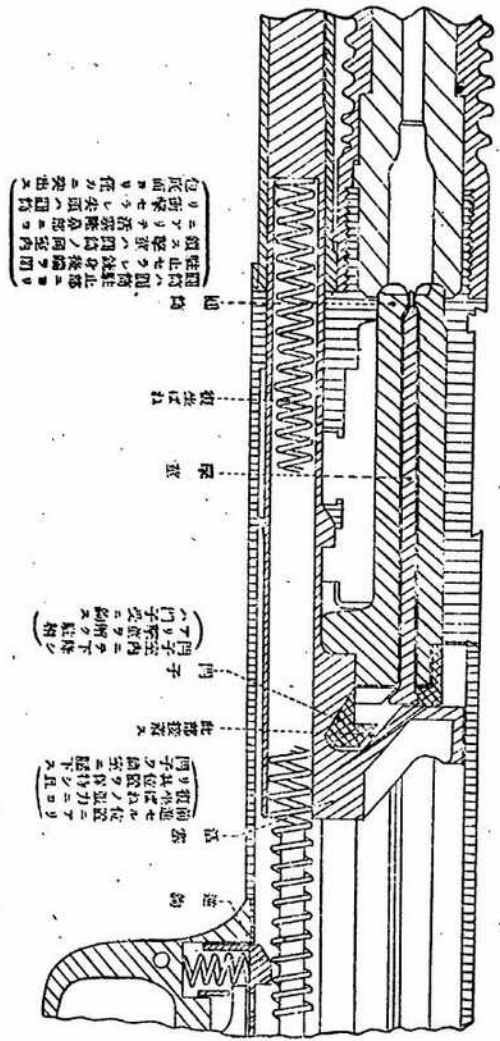


標・造・機・能

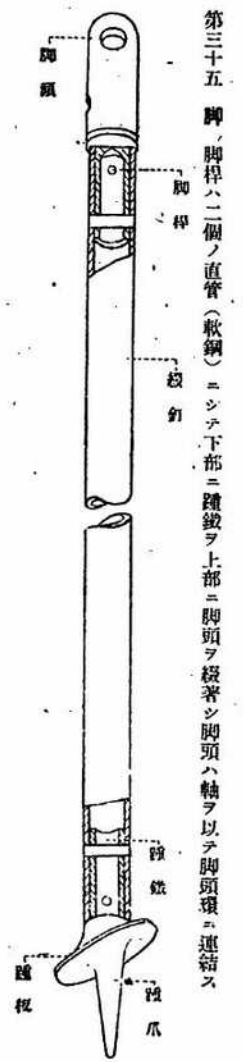


構造部

二九

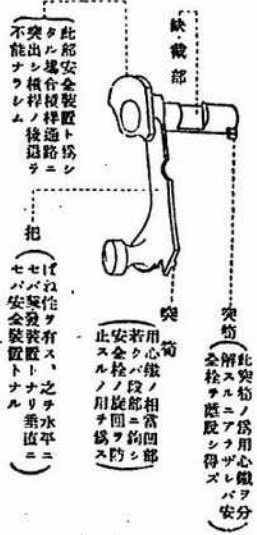


第三十六 射撃前ニ於ケル閉鎖位置  
第八節 銃尾機關ノ機能



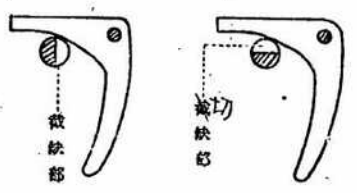
第三十五 脚ノ脚桿ハ二個ノ直管(軟鋼)ニシテ下部ニ踵鐵ヲ上部ニ脚頭ヲ綴著シ脚頭ハ軸ヲ以テ脚頭環ニ連結ス  
第七節 脚

安全栓見取圖



第三十四 安全栓 軸ヲ以テ前圖ノ關係位置ニ結合セラル  
十一年式輕機關銃取上ノ參考

安全裝置 發射裝置



二八

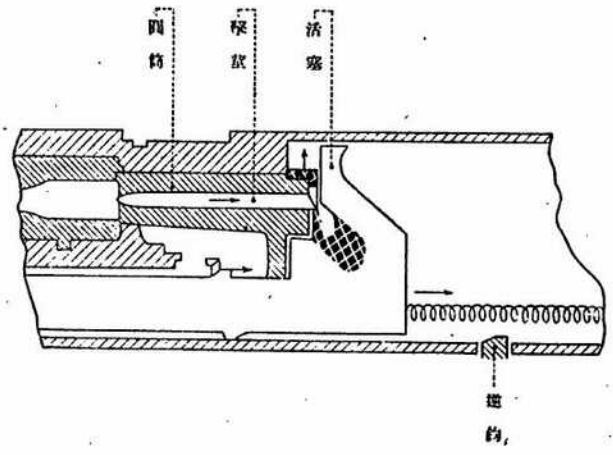




十一年式輕機關銃取扱上ノ參考

第三十七 遊底ノ閉退及送彈

- 一、槓桿ヲ引キテヨリ圓筒後退開始迄、槓桿ヲ握リ之ヲ後方ニ引ケバ活塞ハ後退ヲ始ム
- 活塞後退ヲ始ムルヤ門子ハ活塞上面後方突堤ノ斜面ニヨリ扛上セラレ閉門ヲ解キ同時ニ擊莖ヲ僅カニ後退セシム
- 活塞更ニ後退シ其ノ上面前方突堤ガ圓筒下方ニ鉤スルニ至ルヤ圓筒ハ活塞ト共ニ後退ヲ開始ス
- 二、送彈(送彈機關ノ作用圖(甲))
- 三、活塞續イテ後退シ其ノ逆鉤部ガ逆鉤ノ位置ニ達スルヤ鉤部後方斜面ハ逆鉤ヲ壓下シツ、其



位置ヲ通過シ之ニ鉤ス然ル後槓桿ヲ前方位置ニ復セシム

第三十八 擊發 引鐵ヲ引ケバ逆鉤ハ降下シ活塞ノ鉤止ヲ解キ活塞ハ復坐ばねノ彈撥力ニ依リ前方ニ進出ス、圓筒ハ活塞ト共ニ前進シ其ノ頭部受彈坐上ノ實包後端ニ達スルヤ之ニ衝擊ヲ與ヘテ之ヲ藥室內ニ裝填セシム此間彈送ハ活塞ノ平整部斜溝ト彈送坐下面突筋トノ作用ニ依リ左方ニ移動ス(送彈機關作用圖(乙)参照)圓筒前進シテ其ノ抽筒子裝填セラレタル實包ノ底面ニ衝突スルヤ抽筒子爪部ハ藥莖起線部ニ鉤ス、門子ハ門子室ニ達スルヤ活塞隆鼻部ノ斜面ニ依リ壓下セラレ閉門ノ位置ヲ取り同時ニ擊莖後端ノ抱持ヲ解キ擊莖ヲ自由ナラシム活塞ハ尙前進シ隆鼻部ノ前面ヲ以テ擊莖ヲ衝擊前進セシメ擊發作用ヲ爲サシム

機 造 機 能

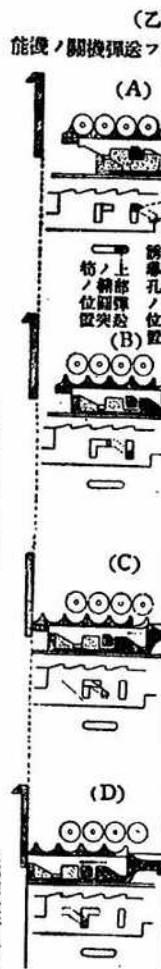
第三十九 發射後ノ機能 彈丸銃腔内ヲ前進シ「ガス」漏孔ノ位置ヲ通過スルヤ火藥「ガス」ノ一部ハ同孔ヨリ漏出シ規整子ノ「ガス」漏孔ヲ經テ「ガスポンプ」内ニ入りテ膨脹シ活塞頭ニ作用シ活塞ヲシテ復坐ばねヲ壓縮シツ、後退セシム、此ニ於テ四子ハ活塞陸鼻部ノ前方突堤斜面ノ爲ニ扛上セラレ閉門ヲ解キ次ニ前方突堤ヲ以テ開筒ヲ後退セシム、故ニ遊底ハ常ニ彈丸ノ銃口ヲ離レタル後始メテ開カレ以テ火藥「ガス」ヲシテ藥室ヨリ後方ニ噴出スルガ如キコトナカラシム、爾後活塞遊底ハ共ニ後退シ發射前遊底ヲ開キタルトキト同位置ニ達ス、遊底後退スルヤ抽筒子ハ藥莢ヲ抽出シ筒頭部ト共ニ藥莢ヲ挾持後退シ活塞陸鼻部ハ獸子ノ後端ヲ壓シテ獸子頭ヲ以テ藥莢基部ヲ蹴リ之ヲ右下方ノ藥莢蹴出窓ヨリ擲出セシム、裝彈機關ノ作用ハ開退ノ場合ニ同ジ

活塞ノ後退終ルヤ復坐ばねハ再ビ活塞ヲ前進セシメントス此ノ際引鐵ヲ引キアラザルトキハ活塞ノ前進ヲ制止ス故ニ更ニ引鐵ヲ引クトキハ前記ノ順序ニ依リ裝填、閉鎖及發射ヲ行フ即チ單發射擊ナリ若シ連續引鐵ヲ引キアルトキハ毫モ活塞ヲ阻止スルモノナキヲ以テ發射、後退、裝填ヲ連續反復ス即チ連發射擊ナリ

一 挿彈子ニ在ル實包ヲ射盡シタルトキハ空挿彈子ハ落下窓ヨリ落下シ直上ノ實包ハ彈倉底ニ壓著セラル、彈倉内ノ實包ヲ悉ク射盡シタルトキハ更ニ彈藥ヲ填實シ遊底ヲ開退シ射擊ヲ續行シ得又彈倉内ノ實包ヲ射盡サルトキニアリテモ射擊ヲ中止セバ之ヲ補填スルコトヲ得ベシ此場合ニ於ケル射擊再興ノ爲ニハ遊底ノ後退ヲ行フノ必要ナキモノトス

送彈ノ要領

活塞ノ後退ニ伴ヒ彈送坐ハ其變形突筒ト活塞平盤部ノ斜溝トニ依リ彈送坐下面弧削部ノ活塞平盤部前方左側弧削部ニ



**B** 彈送坐ハ左方へ運動シ上下部彈送ハ其ノ儘ノ關係位置ヲ保チタルマ

**C** 彈送坐ハ上下部彈送ヲ伴ヒ左方ニ運動シ上部彈送先ヅ彈送止メニ支ヘラル

**D** 上部彈送停止スルモ彈送坐ハ下部彈送ヲ伴ヒ左方ニ運動シ彈送止メニ支ヘラルハニ至リテ停止ス即チ發射前ニ於ケル姿勢ナリ

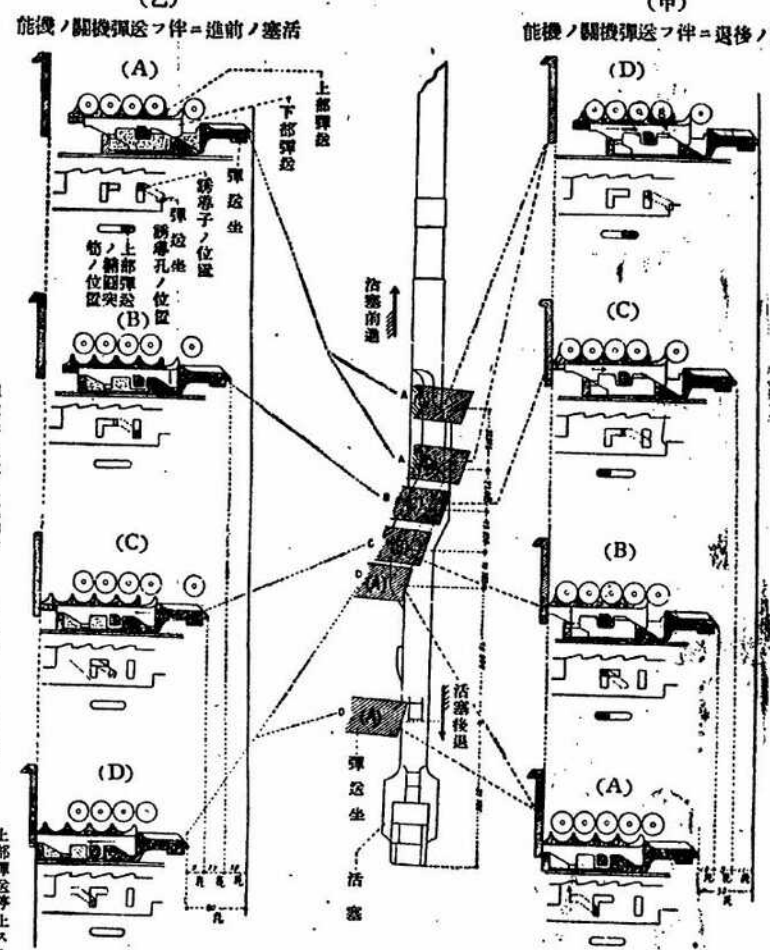
彈送左方移動ノ要領

活塞ノ前進ニ伴ヒ彈送坐ハ左方へ運動ス然レドモ誘導子頭ハ彈送室右方ニ突出シアルヲ以テ彈送ハ直ニ彈送坐ノ左方運動ニ伴ハズ先ヅ彈送坐内面ノ斜面ニ依リ其位置ニ於テ彈送坐内ニ低下シ其爪ヲ彈倉底下ニ沈入シ實包ノ鉤ヲ解ク此際誘導子ハ彈送坐誘導孔ノ右下部ニ移リ彈送室右方ニ形窓ノ下部ニ達ス更ニ彈送坐左方ニ進ムヤ下部彈送ハ彈送坐ニ鉤シ下部彈送ハ上部彈送ヲ伴ヒ共ニ左方ニ運動ス即チ誘導子頭ハ右方ニ形窓下部内面ノ斜面ニ依リ壓入セラレ左方ニ形窓下部ニ至リ突出シ射擊前ニ於ケル閉鎖位置ノ姿勢ニ復ス





用作ノ開機彈送



彈送左方移動ノ要領

活塞ノ前進ニ伴ヒ彈送ハ左方ヘ運動ス然レドモ誘導子頭ハ彈送室右方一型窓上部ニ突出シアルヲ以テ彈送ハ直ニ彈送ノ左方運動ニ伴ハズ先ヅ彈送室内ノ斜面ニ依リ其位置ニ於テ彈送室内ニ低下シ其爪ヲ彈倉底下ニ沈入シ實包ノ鉤ヲ解ク此際誘導子ハ彈送室誘導孔ノ右下部ニ移リ彈送室右方一形窓下部ニ達ス更ニ彈送室左方ニ進ムヤ下部彈送室ハ彈送室上部彈送室ト共ニ左方ニ運動ス即チ誘導子頭ハ右方一形窓下部内面ノ斜面ニ依リ壓入セラレ左方一形窓下部ニ至リ突出シ射撃前ニ於ケル閉鎖位置ノ姿勢ニ復ス

送彈ノ要領

活塞ノ後退ニ伴ヒ彈送室ハ其變形突箭ト活塞平盤部ノ斜溝トニ依リ彈送室下面弧形部ノ活塞平盤部前方左側弧形部ニ支ヘラルル迄右方ニ運動ス然レドモ彈送室運動ノ初期ニ於テハ誘導子頭ハ彈送室ノ左方一形窓下部ニ突出シアルヲ以テ彈送直ニ彈送室ノ右方運動ニ伴ハズ先ヅ彈送室内ノ斜面ト下部彈送ノ斜面トニ依リ其ノ位置ニ於テ上昇セシメラル此上昇間誘導子ノ段部ハ彈送室後壁ノ誘導孔ニ鉤シアルヲ以テ常ニ誘導子頭ハ一型窓ニ突出シ彈送ラシテ完全ニ上昇セシム彈送ノ上昇ニヨリ各爪ハ實包間ニ進入シ上部彈送ノ槽圓突箭ハ彈倉底ノ長槽圓孔左端ニ突出ス此際誘導子ハ彈送室誘導孔ノ左上部ニ移リ彈送室左方一形窓ノ上部ニ達ス、更ニ彈送室右方ニ進ムヤ下部彈送ハ彈送室ニ鉤セラレ共ニ右方ニ運動ス即チ誘導子頭ハ一形窓右端ニ至リ次テ内面ノ斜面ニ依リ壓入セララル爾後右方一型窓ニ達スル迄誘導子ハ其ノ段部ニ依リ絕對ニ降下シ得ザルヲ以テ其ノ儘右方ニ移動シ右方一形窓上部ニ至リ突出ス又上部彈送ハ實包ニ依リ壓定セラレアルヲ以テ下部彈送同時ニ運動ヲ起サズ下部彈送ニ鉤セララルニ至リ始メテ右方ニ運動シ槽圓突箭ノ運動ニ當リ各實包ハ彈送爪ニ達シタルトキ運動ヲ停止ス  
彈送ノ運動ニ當リ各實包ハ彈送爪ニ鉤セララルヲ以テ右方ニ移動ス此際彈送爪ハ移動シ能ハザルヲ以テ實包起線部ハ彈送室内ヲ滑走スルモノトス  
下部彈送ハ上部彈送ニ先ダテ下層右端實包ヲ右ニ移動シ次テ下部彈送ハ一體トナリ右ニ移動シ活塞後退終リタルトキハ下部彈送ハ右端實包ヲ受彈送上ニ上部彈送ハ其他ノ實包ヲ一實包分右ニ移動ス此際右端實包ハ支彈ばねヲ壓下シ油導子ヲ上シテ油ヲ受彈送上ニ至リ圓筒通路板増肉部、支彈ばね及受彈坐右側突堤ニ依リ其位置ヲ保持ス

(D) 彈送室ハ更ニ下部彈送ノミテテ右方ニ移動シ下部彈送ハ更ニ右端ノ實包一發ノミヲ推送シトキ右端ノ實包ヲ受彈送上ニ送ル

(C) 彈送室ハ更ニ下部彈送ノミテテ右方ニ移動シ下部彈送ハ更ニ右端ノ實包一發ノミヲ推送シトキ右端ノ實包ヲ受彈送上ニ送ル

(B) 彈送室ノ右方ニ移動シ上部、下部彈送ハ一體トナリテ上昇シ各爪ハ實包間ニ進入ス

B 彈送室ハ左方ニ運動シ上部彈送ハ其ノ儘ノ位置ニ保チタルノミマ彈送室内ニ沈下シ實包トノ鉤ヲ解ク

C 彈送室ハ上部彈送ヲ伴ヒ左方ニ運動シ上部彈送先ヅ彈送止メニ支ヘラル

D 上部彈送停止スルモ彈送室ハ下部彈送ヲ伴ヒ左方ニ移動シ彈送止メニ支ヘラルハニ至リテ停止ス即チ射撃前ニ於ケル姿勢ナリ

裏面白紙

第二章 豫備銃身及屬品

第一節 豫備銃身

第四十 谷銃ニハ豫備銃身一箇ヲ附ス豫備銃身腔蓋ヲ以テ銃身ノ兩端ヲ蓋ヒ麻布製ノ銃身套ニ收容ス

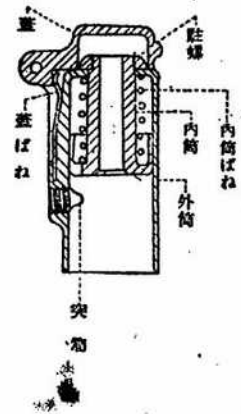
第二節 屬品

第四十一 負革 銃ヲ負フ場合用フルモノニシテ響環ヲ以テ伸縮スル事ヲ得兩端ニ一箇ノ茄子環ヲ附シ放熱筒及銃床ノ  
顯現ニ結合ス

十一年式輕機關銃取扱上ノ參考

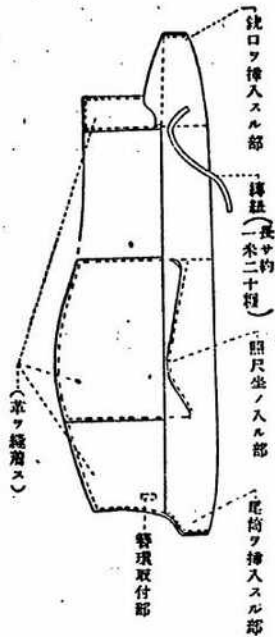
第四十二 銃口蓋 鋼製ニシテ内

筒外筒蓋等ヨリ成リ外筒内部ニハ突箭ヲ有シ銃口部ニ鉤スルニ供ス内筒ハ銃腔手入ニ當リ保心筒ノ用ヲ爲ス



三四

第四十三 銃覆



第四十四 撮革 主體ヲ石綿布製トシ

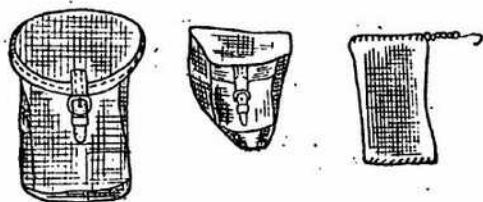
外面ハ褐色牝牛革内面ハ金屬網ヲ以テ覆ヒ加熱セル銃ヲ保持スルノ用ニ供ス銃ニ懸吊スル爲メ鈎鏈及自在環ヲ備フ

第四十五 裝填架臺 褐色牝牛革製ニ

シテ離脱セル裝填架ヲ收容スルニ供ス而シテ携帶ノ爲ニハ帯革ニ挿シ或ハ背囊ニ裝着シ得ベシ

第四十六 屬品囊 麻布製ニシテ屬品

差ヲ收容シ帯革ニ挿シ携行スルモノトス



三五

構造機能

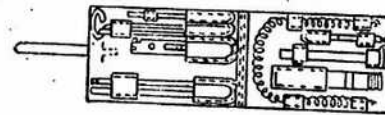
十一式輕機關銃取扱上ノ參考  
 第四十七 屬品差 褐色多脂牛革製ニシテ裝著品左ノ如シ

- 備 杖
- 規整子廻
- 栓 拔
- 「ガス」搔
- 打 發 拔
- 槌
- 轉 螺 器 (小銃用)
- 藥 莢 拔
- 豫 備 品 入
- 復 坐 ば ね

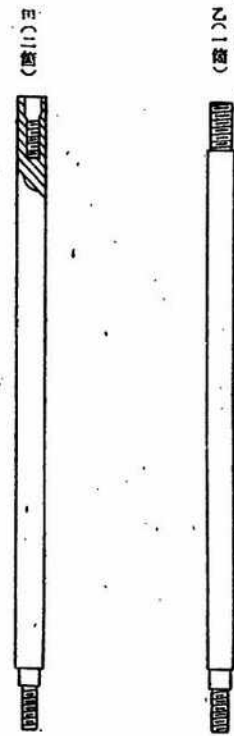
甲 乙

大小各

甲乙各



杖 棚

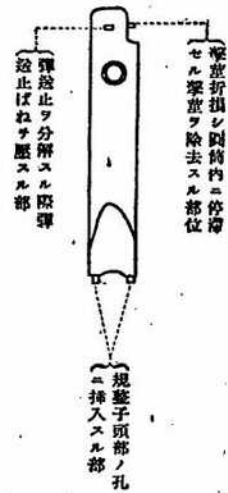


一、棚杖及「ガス」搔 甲乙ノ順序ニ結合シ甲端ノをねぢニハ洗管若ハ洗頭ヲ螺著シ専ラ銃腔ノ手入ニ使用シ乙端ニハ「ガスポンプ」先頭若ハ「ガス」搔ヲ螺著シ「ガスポンプ」又ハ尾筒内部ノ手入ニ使用ス



構 造 機 能

二、規整子通 一端ハ規整子ヲ裝設スルニ供シ他端截缺部ノ突筒ハ圓筒内ニ折損停滯セル擊莖ヲ除去スルニ供ス又平板上ニ直立セル突筒ハ彈倉ノ彈送止室内壁ニ在ル方窓ヨリ彈送止ばねヲ壓シ彈送止ヲ離脱スルノ用ヲナス



三、栓抜及槌 分解結合其他射撃間ノ故障排除ニ使用ス



四、打殼拔 打殼拔甲ハ其爪ヲ藥

莖左下方起縁ニ鉤シ乙ハ突込等

ノ際其刃部ヲ藥莖起縁ニ當テ之

ヲ後退セシムル等ニ使用スルモ

ノニシテ共ニ藥莖及受彈坐ニ在

ル藥莖等ヲ抽出スルノ用ヲ爲ス

五、藥莖拔 藥莖横截ノ場合之ガ

排除ニ用フ其ノ要領ハ先ツ之ヲ

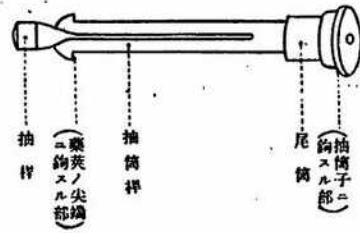
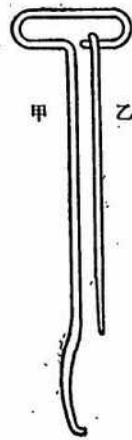
藥室内ニ挿入シテ空撃ヲ行ヒ槓

桿ヲ後方ニ引キ藥莖拔ヲ抽出ス

藥莖拔ト共ニ抽出セラレタル藥

莖ノ殘部ハ藥莖拔ノ尾筒ヲ螺脱

シテ之ヲ脱スルモノトス



六、準備品入 鐵製圓筒ニシテ大小二室ヨリナリ兩端ニ蓋ヲ有ス、小室ノ方向ヲ示ス爲段部ヲ設ク（舊式ハ黒帶ヲ畫ク）其ノ内容品左ノ如シ

十一年式輕機關銃取扱上ノ參考

四〇

考備	品容収室小					品容収室大				
	誘導子ばね 約八卷彈力弱	油導子小ねち 約四卷彈力八	抽筒子 約七卷彈力五	遊子 約七卷彈力五	「ガスボンブ」駐栓 約三卷彈力二	損桿ばね 約九卷彈力五	抽筒子ばね 約七卷彈力五	撃子ばね 約七卷彈力五	擊子ばね 約七卷彈力五	裝填架駐子ばね 約八卷彈力強
二、蹴子軸ハ壓桿止トナルヲ以テ何レニ使用スルモ可ナリ	品容収室小	品容収室小	品容収室小	品容収室小	品容収室小	品容収室小	品容収室小	品容収室小	品容収室小	

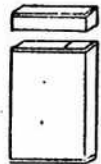
第四十八 手入具囊及手入具箱 手入具囊ハ麻布製ニシテ手入具箱ヲ收容シ手入具箱ハ鐵製ニシテ内部ヲ二室ニ分ツ手入具箱ノ收容品左ノ如シ

油壺	「ガスボンブ」洗頭	洗頭	門子
(スピンドル油)、三立收容)	一	二	一
手入	筒洗桿	管	

囊具入手

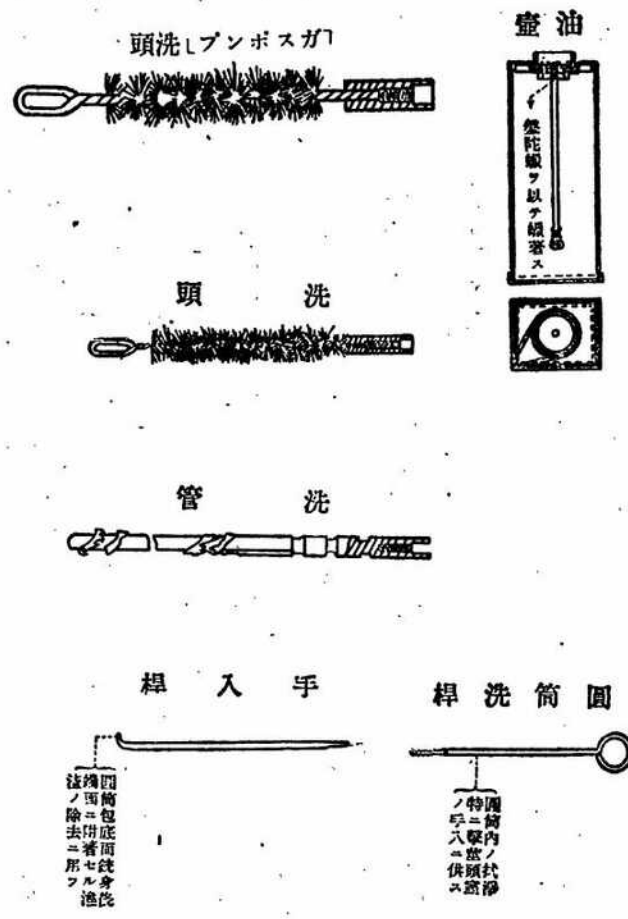


箱具入手





品容收箱具入手



第三章 彈藥盒、彈匣、彈囊

- 第四十九 彈藥盒 麻布製ニシテ紙函ノ儘實包六十發ヲ收容シ帶革ニ裝着シテ携帶スルモノトス
- 第五十 彈匣 鐵板製ノ匣ニシテ蓋ヲ有シ提把ヲ裝ス内部ハ實包三彈彈子分宛ニ區劃シ百二十發ヲ收容ス
- 第五十一 彈囊 麻布製ニシテ彈匣ヲ包被シ之ヲ携帶スルノ用ニ供シ彈匣ヲ包被セザルトキハ囊トシテ實包約百五十發ヲ收容携帶シ得ベシ護ハ携帶ノ爲麻製負紐ヲ附ス負紐ニハ鈎ヲ有シ囊ノ離脱容易ナリ

### 第二篇 分解 結合

#### 通 則

第五十二 分解結合ハ普通分解(結合)及特別分解(結合)ニ區分ス軍隊學校ハ本篇ニ示ス以外ノ分解ヲ施行スベカラズ  
分解結合ハ本篇ノ如ク之ヲ定ムト雖モ必要以外ノ部品ハ之ガ分解ヲ避クルヲ要ス

第五十三 分解結合上ノ一般ノ注意左ノ如シ

- 1、分解及結合ハ徐々ニ行ヒ決シテ燥急ナルベカラズ
- 2、分解及結合困難ナル時ハ強ヒテ之ヲ行フコトナク幹部ノ指示ニ據リ處置スベシ
- 3、分解ハ規定ノ順序方法ニ遵ヒ且分解セル部品ハ順序正シク並列シ毀損汚染混同又ハ紛失ヲ避クベシ又結合ニ際シテハ各部品番號ニ注意シ順序正シク之ヲ行フベシ
- 4、分解ノ際ハ部品ノ缺損ヲ検査シツ、分解シ又結合前ニハ泥土砂塵ノ附着シアラザルコトヲ確カメ且適度ニ脂油ヲ施スベシ
- 5、轉螺器等ハ手力ノ及バザル時ニ限り之ヲ使用シ確實ニ溝ニ入レ變形滑脱セシメザルヲ要ス又緊定ニ方リテハ適度ノ力ヲ加フルヲ避クベシ
- 6、結合ニ際シテハ各部ノ検査手入ヲ十分行ヒ又適度ニ塗油シ且一部ノ結合ヲ終ル毎ニ機能ノ點檢ヲ行フベシ

7、戰鬥間裝填架ヲ裝シタル儘活塞及遊底ヲ分解シタル後之ヲ結合スル場合ニハ活塞平盤部斜溝ト彈送坐下面變形突筋トノ吻合ニ留意スベシ即チ分解後裝填架ノ重量ノ爲缺左方ニ傾キ彈送坐分解時ノ位置ヨリ左方ニ移動シ爲ニ結合ノ際活塞頭部並活塞斜溝ト彈送坐下面變形突筋ト衝突シ結合不能ニ陥ルコトアリ斯ノ如キ時ハ彈送坐及彈送ヲ活塞抽脱ノ位置ニ移動シ結合スルヲ要ス

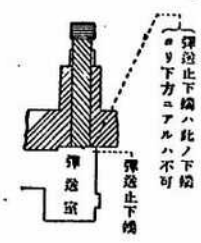
#### 第一章 普通分解及結合

第五十四 普通分解ヲ行フ部品及分解ノ順序通常左ノ如シ

- 裝填架
  - 油 槽
  - 尾筒底及復坐ばね
  - 活塞及遊底
  - 槓 桿
  - 規整子 (規整子ハ順序ニ據ラザルコトヲ得)
- 第五十五 普通分解ニ於テ分解スベキ部品及分解結合上ノ注意左ノ如シ(本分解ヲ行フニハ遊底ヲ閉鎖シ置クヲ可トス)



架 填 裝		分解スル部品
坐 送 彈	架 填 裝	
<p>彈送坐ヲ裝填架ノ彈送室ヨリ脱スルニハ彈送止ヲ右手拇子頭ヲ以テ上シ(要スレバ槌打打上ス)彈送坐ヲ右方ヨリ壓シ左方ニ抽出ス</p>	<p>裝填架ヲ尾筒ヨリ離脱スルニハ右手ヲ以テ尾筒ヲ下方ヨリ抱ク如ク保持シ(裝填架ヲ結合セル部ノ下方)左手掌ヲ以テ彈送室左側ヲ右方ニ輕打シ次ニ尾筒ヲ下方ヨリ保持シタル儘ニテ右指ヲ以テ裝填架ノ後方ニ引クト共ニ左方ヘ壓ヘツ、左手ヲ左方ニ抽出ス</p>	<p>分解ノ方法</p>
<p>彈送止ノ下端ヲ彈送止結合部最下端迄上スルヲ要ス然ラザレバ上部彈送ノ爪部ニ衝突シ反起ヲ生ゼシム</p>	<p>駐子緊クシテ拇子ニテ引キ得ザレバ槌ノ柄ニテ輕打スレバ可ナリ強打スルトキハ駐子ヲ破損スルコトアリ</p>	<p>分解上ノ注意</p>
<p>彈送坐ヲ裝填架ニ結合スルニハ下部彈送ヲ降下ノ位置ニ在ラシメ左手ヲ以テ彈送室ニ挿入シ拇子頭ヲ以テ誘導子頭ヲ壓シテ挿入シ彈送止ヲ確實ニ降下ス</p>	<p>彈送坐ヲ尾筒ニ結合スルニハ左手ニテ裝填架ヲ握リ右手ヲ以テ尾筒ノ右側ヲ握リ裝填架ノ前方ヲ稍々内方ニ向ケ挿入部ノ前側ニテ駐子ヲ輕シツ、右方ニ挿入シ駐子ヲ確實ニ尾筒右側ニ鈎セシム之ガタメ裝填架挿入ノ最後ニハ稍々強ク壓入スルヲ可トス</p>	<p>結合上ノ注意</p>



油 槽		分解スル部品
送 彈 部 下	送 彈 部 上	
<p>下部彈送ヲ彈送坐ヨリ脱スルニハ左手ニテ彈送坐ヲ下部彈送ヲ上シテ保持シ左指ニテ誘導子ヲ十分ニ壓シツ、右手ニテ下部彈送ヲ僅カニ上并セシメ(誘導子ヲ限ル、マデ)次イデ右指ヲ以テ誘導子ノ飛脱スルヲ防止シツ、彈送坐ヨリ離脱ス</p>	<p>上部彈送ヲ下部彈送ヨリ脱スルニハ彈送坐ノ右端ヲ左ニシテ左手ニ保持シ拇子ヲ以テ下部彈送ヲ彈送坐ヨリ上シタル後上部彈送ノ筒間突筒ヲ下部彈送ノ前側縁部ノ中央ニ位置セシメ上部彈送ノ前方爪部ヲ下ガ兩者ノ吻合ヲ解キ上方ニ離脱ス</p>	<p>分解ノ場合ニ準ズ</p>
<p>油槽ヲ離脱スルニハ油槽止ヲ右指ニテ十分壓下シテ鈎部ヲ油槽ヨリ確實ニ脱シ左手ノ指ヲ後方ニシテ油槽ヲ握リ左方ニ水平ニ抽出ス</p>	<p>下部彈送ヲ十分ニ上シ上部彈送ノ筒間突筒ヲ下部彈送ノ前側縁部ノ中央ニ位置セシメ反起ヲ生ジ彈送不良ノ故障ヲ發生ス</p>	<p>誘導子ヲ飛脱セザルコト及下部彈送ヲ十分上シテ分解スルコト</p>
<p>油槽止ヲ尾筒ニ近ク壓下スルコト油槽ノ左端ヲ稍々斜ゲル氣持ニテ抽出セバ分解容易ナリ</p>	<p>誘導子ノ準梁ヲ下部彈送ノ準溝ニ確實ニ結合シタル後彈送坐ニ結合スベシ</p>	<p>油槽底面結合部ヲ尾筒ノ相當溝ニ正確ニ吻合セシメ確實ニ油槽止ニ鈎スベシ</p>

活 塞 及	尾筒底及復坐ねば
<p>一、尾筒後端ニ右掌ヲ當テ左引キ活塞後端ヲ右手掌ニ當ラシメ槓桿ヲ進メテ爾位ニ復シ右手ヲ以テ遊底及活塞後部ヲ共ニ握リ活塞ヲ後方ニ引キ左手ヲ以テ活塞平盤部附近ヲ支ヘツ、遊底活塞ヲ抽脱ス</p> <p>二、左手ヲ以テ遊底ヲ活塞ヨリ分離シ右手ニテ四子ヲ扛上シテ擊堂ヲ僅ニ後退セシメ更ニ四子ヲ降下シテ圓筒先端ヲ稍ノ事ヲ右掌ニ擊堂ヲ受ケテ之ヲ圓筒内ヨリ抽出シ次ニ四子ヲ扛上シテ圓筒</p>	<p>一、活塞頭ヲ十分抽出スルコト</p> <p>一、左手ヲ以テ尾筒底及銃把ヲ確實ニ握リ分解スルコト</p> <p>(復坐ねば強クシテ脚頭緩キトキハ銃ヲ前方ニ轉倒スルコトアリ)</p>
<p>一、右手ヲ以テ活塞遊底ヲ確實ニ握リ之ヲ保持スルコト</p> <p>(保持不確實ナル時ハ轉落セシムルコトアリ)</p> <p>一、活塞ハ尾筒ト平行ニ後方ニ抽脱スルコト中途ニ於テ後方ヲ上ゲレバ活塞平盤部ノ兩個ニ反起ヲ生ゼシメ又活塞先端ノ磨滅ノ原因トナル</p> <p>一、抽筒子ばねノ分解ニ方リ手入桿ノ挿入困難ナル場合ニ於テハばねノ中央附近ニ挿入シ頭部ノ方ニ移シテ後ニ分解スルコト此際ニ於ケル脚部ノ保護ハ他ノ場合ニ</p>	<p>一、活塞ハ逆鉤部ヲ逆鉤ヨリ脱シ置クヲ可トス復坐ねばヲ確實ニばね室ニ挿入セザレバ彎曲セシムル原因トナル</p> <p>一、左手ヲ以テ尾筒底ヲ壓シ且銃把ヲ確實ニ握リ結合スルコト</p> <p>一、尾筒底駐栓ヲ確實ニ結合スルコト</p>

遊 底	槓 桿	規 整 子
<p>三、抽筒子ばねノ頭部ト圓筒トノ間ニ手入桿ノ端部ヲ挿入シテ僅ニ扛起シテ抽筒子ノ溝ヨリ脱シ(此際ばね脚部ヲ保護スル爲左手ヲ以テ脚部前方ヲ押ヘばねガ過度ニ扛起セザルコト)次ニ左手母指子ヲ以テばね脚ヲ強ク壓シツ、右手ヲ以テ直角ニ左方ニ旋回シテ之ヲ離脱シ次ニ抽筒子ヲ其ノ室ヨリ抽脱ス</p>	<p>槓桿ヲ十分後方ニ引キ左方ニ脱ス槓桿ばねヲ分解スルニ當リテハ左手ヲ以テ槓把ト桿部ヲ合セテ確實ニ握リ右母指子ニテ爪部ヲ外方ニ壓シテ之ヲ直角ニ旋回シ外方ニ脱ス</p>	<p>駐子ヲ抽キ稍々旋回シテ抽出ノ位置ニ在ラシメ規整子ヲ戻同シテ離脱ス戻同困難ナル場合ハ射撃後ニシテ規整子ヲ加熟シアル場合等ハ規整子廻ヲ使用ス</p>
<p>比シ一層必要ナリ</p>	<p>槓桿ばねノ分解ハ必要以外行ハザルヲ可トス槓桿ばねノ分解及結合ニハ抽筒子ばねト同様ノ注意ヲ必要トス</p>	<p>規整子離脱後ハ駐子ヲ結合ノ場合ノ位置ニ在ラシメばねノ裏損ヲ預防スベシ</p>
<p>一、活塞頭部及平盤部兩個通路ニ反起ヲ生ゼシメザルコト</p> <p>一、遊底ヲ活塞上面前方ノ突堤ノ前方ニ結合セザルコト</p> <p>一、圓筒ヲ四子ノ駐付ノ通路ニ結合スルコトアリ</p> <p>一、引鐵ヲ引キ活塞ヲ食指頭ニテ前進セシメ逆鉤後部ヲ脱シ置クコト</p>	<p>後方準梁ノ部ヲ確實ニ吻合セシメタル後前方ニ進ムルヲ要ス</p>	<p>駐子ヲ抽出シタル後結合スルコト固有ノ分畫ヲ確實ニ破スルコト(規整子套部ノ後端ハ「ガスボンブ」ノ二平行線間ニ在ラシメ其所需分畫ヲ「ガスボンブ」ノ縦線ニ一致セシム)規整子「ガスボンブ」ノ關係圖参照</p>

分 解 結 合

第二章 特別分解及結合

第五十六 特別分解ハ雨雪、風塵時使用後ノ手入、部品ノ交換、修理、其他特ニ必要アル場合之ヲ行フモノトス、此際ハ幹部監督ノ下ニ於テ行フヲ要ス、分解ヲ行ヒ得ル部品左ノ如シ

- 一、放熱筒及銃身
- 二、銃 床
- 三、安全栓、引機逆鉤
- 四、蹴 子
- 五、裝 填 架
- 六、油 槽
- 七、規 整 子
- 八、門子受被及門子受
- 九、表尺板及照尺ばね

射撃其他ノ場合手入ノ際必要ニ應ジ實施ス

修理ノ際實施ス

第五十七 分解ノ要領並分解結合上ノ注意左ノ如シ

分解ノ順序	分解ノ方法	分解上ノ注意	結合上ノ注意
放熱筒及銃身	<p>一、負革ヲ離脱ス</p> <p>二、栓抜ニテ「ガスポンプ」駐栓ヲ抽脱シタル後銃ヲ立テ「ガスポンプ」ヲ後方ニシテ左手ヲ以テ放熱筒ヲ握リ右手ヲ以テ尾筒左側面ヲ輕打シテ左ニ旋回（旋回困難ナル場合ニ於テハ「槌打」シ尾筒ヲ戻同シテ銃身ト共ニ放熱筒ヲ離脱ス</p> <p>二人ニテ分解スル場合ニハ一人ハ放熱筒及銃身ヲ一人ハ尾筒ヲ握リテ分解ス（銃身ヲ水平若クハ稍々下ゲルヲ可トス）一人ニテ分解スル場合ニハ銃ヲ机上ニ立テ左手ヲ以テ銃身ヲ右手ヲ以テ銃把ヲ握リテ尾筒及銃床ヲ旋回シ離脱ス</p> <p>三、銃身ヲ前方ヨリ壓シ要スレバ銃口ヲ下ニシ机上ニ壓シ後方ニ抽出シ放熱筒ヨリ離脱ス</p>	<p>一、駐栓ヲ抽脱スルニハ栓抜大ヲ用フルコト</p> <p>一、尾筒ヲ離脱スルニ方リ終期ニ於テ放熱筒及尾筒ノ保持ヲ確實ニシねむ部ニ反起ヲ生ゼシメザルコト</p> <p>一、一人ニテ分解スル場合銃身ノ保持ヲ確實ニシ且尾筒ヲ轉倒セシメザルコト</p> <p>一、分解困難ナル場合ニ於テハ尾筒左側面裝填架取付部前方ニ常木（片布）ヲナシ槌打スルト同時ニ必ズ二人ニテ旋回方向ニ力ヲ加フルヲ要ス此際脚ヲ持タヌコトニ注意スルヲ要ス又「ガスポンプ」駐栓挿入孔ヲ打タヌコト</p> <p>一、銃ヲ逆ニシテ銃身ヲ分解スル場合ニ於テハ垂直ニシテ上下シ銃口部ヲ輕打シ分解ス此際落下セシメザルコト</p>	<p>一、銃身ヲ放熱筒ニ結合スルニ方リ銃身上ノ「線」ト放熱筒上面「線」ヲ一致セシメ徐々ニ裝入シ銃身駐梁及同室ニ打返反起ヲ生ゼシメザルコト（銃身後端面ト放熱筒後端ト一致セシムルコト）放熱筒ト尾筒トヲ結合スルニ當リねむ部ヲ反起（實減セシメザルコト）</p> <p>一、尾筒下面ノ「線」ト放熱筒下面ノ「線」ト一致セシムルコト（「ガスポンプ」駐脱スルトキハ「線」ト一致セシムルニモ注意ス）</p> <p>一、間隙ヲ生ジ射撃不能ナルコトアリ尾筒ト放熱筒トニ間隙ナキ樣點檢セルコトニ必要ナリ特ニ裝損セル銃ニ於テ然リ</p> <p>一、駐栓ノ挿入確實ナル事</p>

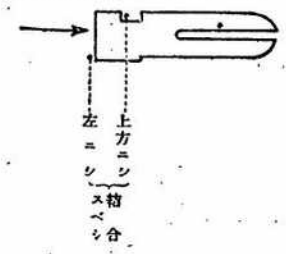
分解結合

銃 床



銃床ヲ分解スルニハ栓抜ニテ用心鐵駐栓ヲ左方ニ抽出シテ名ハ左手ヲ以テ尾筒ヲ下方ヨリ右手ヲ以テ尾筒後端耳部上面ヲ握リ他ノ一名ハ右手ヲ以テ銃把ヲ握リ引鐵ヲ十分ニ引キ左手ヲ以テ銃把後端ヲ握リ水平ニ分解ス分解困難ナル時ハ用心鐵前方ノ成可ク尾筒ニ近キ部分ニ當木ヲナシ輕打シ分解スベシ

一、用心鐵抽栓ヲ抽脱スルニ當リ最初ヨリ栓抜ヲ以テ抽脱スル時ハ駐栓頭ヲ變形セシムルヲ以テ最初稍強ク槌打シ尾筒内ニ挿入後栓抜ヲ以テ抽脱スルコト  
一、銃床ノ分解ニ當リ右手ニテ尾筒耳部ヲ持ツトキハ掌ヲ負傷スルコトアリ  
一、引鐵ヲ引カズシテ銃床ヲ抽脱セントシ用心鐵逆鉤頭部ヲ毀損スルコトアリ  
一、直接槌打スルニ當リ槌打箇所適當ナラザル時ハ用心鐵ヲ變形セシメ銃駐栓ノ結合ヲ不能ナラシムルコトアリ槌打スル場合ニ於テモ必ず他ノ二名ハ槌打ト同時ニ分解方向ニ力ヲ加フルヲ要ス



一、引鐵ヲ引キ徐クニ尾筒ニ挿入スルコト  
槌打ニ於ケル注意ハ分解ノ場合ニ準ジ反對側ヨリ輕打ス  
一、用心鐵駐栓ノ結合ニ當リ左側ノ如ク駐栓上方四部ヲ上方ニ結合セザレバ槌打ヲ結合シ得ズ

安全栓、引鐵、逆鉤、及同ねば

安全栓引鐵逆鉤ヲ分解スルニハ用心鐵及銃床ヲ尾筒ヨリ分解シタル後安全栓ヲ下方ニ安全位置マテ旋回シ次ニ僅ニ外方ニ開キテ前方ニ駐止スルマデ旋回シ之ヲ左方ニ抽出スルニハ栓抜小ニテ引鐵軸ヲ抽脱シ引鐵逆鉤及同ねばヲ上方ニ脱ス

一、引鐵軸ノ抽脱上ノ注意ハ用心鐵駐栓ニ準ズ  
一、引鐵軸抽脱後栓抜ヲ其儘トシ右手拇指ニテ逆鉤ヲ壓ヘ以テ逆鉤及ねばノ跳飛ヲ防グヲ可トス

引鐵軸ハ右方ヨリ挿入スルヲ要ス、引鐵及逆鉤ヲ結合スルニハ軸ヲ右方ヨリ半裝入シ其ノ先端ハ内面ト略々一致セシメ次ニ逆鉤ねば及逆鉤ヲ其空ニ入レ引鐵ト逆鉤トヲ鉤セシメ右手ノ拇指頭ニテ引鐵ノ後方ヲ前方ニ壓シ食指ヲ以テ逆鉤頭ヲ壓下セシメツツ左手ニテ栓抜小ヲ左方ヨリ其空ニ裝入假結合ヲ爲シ次ニ軸ヲ槌打裝入スルトキハ結合容易ナリ引鐵軸ノ結合ヲ誤ラザルコト逆鉤及同ねばヲ跳飛セシメザルコト  
結合後引鐵ヲ引キ軌リナキヤヲ點檢スルコト

### 第三篇 取扱及手入

#### 第一章 日常ノ手入及取扱上ノ注意

第五十八 日常ノ手入ニ於テハ通常普通分解(裝填架、油槽、尾筒底、復坐ばね、活塞及遊底、撞桿、及規整子)ヲナシ左ノ如ク手入ヲ行フベシ

- 一、腔中ノ手入ハ銃口蓋ヲ開キコレヲ保心筒トシテ銃口部ヨリ洗矢若クハ樹杖ヲ以テ拭淨シ小銃ニ準ジテ藥室ハ尾筒ヨリ藥室掃除棒ヲ以テ拭淨シタル後適度ニ塗油スベシ(銃口蓋ハ銃ヨリ離脱シテ手入ヲ行フ)
- 二、尾筒内部「ガスポンプ」内部其他離脱セル部品ハ舊油ヲ拭淨シタル後塗油スベシ
- 三、放熱筒及銃身ハ二、三週間毎ニ少クモ一回分解シテ手入ヲ行フ銃ノ内部ニ塵埃ヲ藏リ或ハ雨雪等ニ際會シタルトキハ必ず手入ヲ行フベシ

第五十九 風塵季ニアリテハ大氣ノ乾燥ト土質ノ關係トニ依リ砂塵飛翔シ咫尺ヲ辨ゼザル状態ヲ呈シ之ガ爲摩擦部ニ附著セルモノハ該部ノ滑動ヲ妨ゲ機能ヲ害シ又染塵部ニ附著セルモノハ摩擦ニ因リ之ヲ剝脱スル等兵器ノ保存及使用ニ影響スル處尠カラズ故ニ手入及取扱上左ノ諸點ニ注意スルヲ要ス

- 一、兵器外部ノ塗油ヲ減ジ又ハ拭淨シ使用直前迄勉メテ銃ニ覆ラ施シ特ニ裝填架部ハ確實ニ閉塞スルヲ要ス

二、革具ハ使用前外面ニ塗油スルヲ避ケ要スレバ之ヲ拭除シ以テ塵埃ノ附著ヲ防止スベシ

三、塵埃ノ除去ニ方リテハ之ヲ其面上ニ壓著セザル如ク注意スルヲ要ス例ヘバ腔中ヲ拭淨スルニハ先ヅ木綿片若クハ脱脂綿ヲ洗管ニ輕ク纏卷シテ十分脂油ヲ含有セシメ銃尾ヨリ挿入シテ徐々ニ銃口ヨリ出シ半洗滌ノ意味ニテ塵埃ヲ浮流セシメ要スレバ之ヲ復行シタル後手入ヲ行フ如クス若クは初塵埃ヲ除去スルコトナク手入ヲ實施スルトキハ磨粉ヲ以テ腔中ヲ磨掃スルト同様ノ結果ヲ來スヲ以テ腔中ノ損傷磨滅ヲ大ナラシムルニ至ルベシ又銃口部ヨリ手入ヲ行フトキハ腔中ノ塵埃ヲ藥室ニ集ムル如キ結果トナルヲ以テ特ニ藥室ノ手入ニ注意スルヲ要ス

第六十 雨雪ヲ被ル處アル場合ニ於テハ塗油量ヲ多クシ且狀況之ヲ許セバ銃口蓋、銃覆等ヲ裝スルヲ可トス雨雪ノ腔中ニ侵入スルヲ防グ爲「ワセリン」「ベトローラム」又ハ布片等ヲ以テ銃口部ヲ填塞スルヲ禁ズ是銃口部ヲ填塞シタル儘射撃スル時ハ銃身膨脹ヲ生起スルコトアレバナリ

第六十一 特ニ風塵甚シク或ハ雨雪等ヲ蒙リタル時ハ成ルベク速ニ手入ヲ行フベシ特ニ銃ノ内外部ニ附著セル水分ハ發錆ヲ速カナラシムルノミナラス其儘射撃スル時ハ腔中ニ存スル水滴ノ爲銃身ヲ膨脹セシムルコトアルヲ以テ注意スルヲ要ス

第六十二 極寒時ニ於ケル取扱及手入ハ上述ノ外左ノ事項ニ注意スベシ

- 一、極寒時ニ滿蒙ニ在リテハ濕氣少キヲ以テ特ニ冬季ニ於テハ金屬製品ニ塗油セザルモ發錆ノ憂ナキヲ通常トス然レドモ之ニ馴レテ注意ヲ怠リ却ツテ發錆又ハ腐蝕ヲ生ズルガ如キコトアリ屋外ニ於テハ兵器ハ假令油ヲ施サザルモ



空氣中ノ含有水分僅少ナルヲ以テ發射ノ虞少シト雖モ屋内ニ搬入スベキ兵器ハ屋内ノ水分鐵部ニ凝結シ其ノ蒸發ト共ニ發射ヲ促スモノナルヲ以テ十分水氣ヲ拭取リタル後發射スベシ

- 一、「ベト」ロラタム」ハ極寒時固結シ急凍ニ之ヲ除去セント欲スルモ特ニ加熱スルニアラザレバ不可能ナルヲ以テ部隊ニ支給セラレタル兵器ハ成ルベク之ヲ除去シ「ワセリン」又ハ潤滑油ヲ塗布スベシ屬品中ノ豫備品ニ於テモ亦然リ
- 三、ばね類ハ寒氣ノ爲抗力ヲ減シ衝力ニ因リテ折損スルコトアリ故ニ銃ノ解整、復坐ばね等ハ使用上必要以外ノ衝力ヲ加フルコトヲ避クベシ特ニ零下三十度以下ニ於テ然リトス
- 四、極寒時ニアリテハ鐵部ノ冷却甚ダシク直接ニ手、顔等ヲ觸ル、時ハ皮膚ヲ損傷スルコトアルヲ以テ取扱上注意ヲ要ス

第六十三 酷暑時ニ於ケル手入ハ上述ノ外特ニ左ノ事項ニ注意スベシ

- 一、防滴ノ爲「スピンドル」油ノ効果十分ナラザル場合ニハ菜種油、白紋油又ハ「マシン」油等ノ如キ粘度大ナルモノヲ用フルヲ可トス
- 二、炎天下ニ於テハ特ニ油ノ流出又ハ乾燥急ナリ故ニ油ノ不足ナキニ注意シ施油ノ度ヲ増加スルヲ可トス

### 第二章 射撃上ノ注意

#### 第一節 故障ノ豫防

第六十四 輕機關銃ノ機關部ハ各々相關連シテ始メテ完全ナル機能ヲ發揮スルモノナルヲ以テ單一ニ部品ニ生ジタル故障ト雖モ直チニ銃ノ機能ヲ障礙シ遠ニハ其ノ命數ヲ短縮セシムルニ至ルコトアリ故ニ銃ノ性能各部ノ機能ニ精通シ其ノ取扱法ニ慣熟シ常ニ手入及保存ヲ良好ナラシメ検査ヲ勵行シ以テ銃ノ整備ヲ完全ナラシムルコト最モ緊要ナリ

第六十五 銃ヲ常ニ完全ナラシムル爲ニ検査ヲ行フハ勿論ナルモ絶エズ銃ノ状態ニ注意シ些細ナル部位ノ不具合故障ト雖モ看過スベカラズ

第六十六 機關部ハ塗油缺乏スルトキハ故障ヲ生起シ易キヲ以テ塗油量及時機ニ就キ特ニ注意スルヲ要ス

第六十七 「ガス」壓ノ調整ハ機能調整ノ主體ヲナスモノニシテ過強ナルトキハ銃ノ震動ヲ大ナラシメ命中ノ精度ヲ害スルノミナラズ部品ノ損傷、故障ノ發生ヲ誘致スベキヲ以テ決定スベキ「ガス」壓ハ射撃ニ故障ヲ生ゼザル限リ小ナラシムルヲ以テ本旨トス、故ニ之ガ調節ニ方リテハ「ガス」壓最少ノ規程子分數ヨリ試ミ一度決定後ハ妄リニ變更スベキモノニアラズト雖モ復坐ばねノ強弱銃尾機關ノ潤滑度等ニ依リ適當ナラシムヲ要ス

第六十八 若シ部品ニ故障ヲ生ジタル時ハ假令微細ナリト雖モ之ヲ看過スルコトナク直チニ其ノ原因ヲ精査シ拭淨交換若クハ修理ヲ行ヒ又各部ニ生ジタル反起ハ初期ニ於テ之ヲ除去スベシ

第六十九 豫備品ハ本部品ノ故障ニ際シ速カニ使用スル爲主體ニ適合スル如ク整備シ置キ平時之ヲ使用セザルモノトス

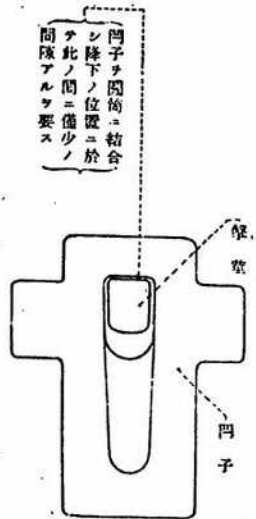
第七十 各部品ニ就テ故障ノ豫防上注意スベキ事項ヲ舉グレバ左ノ如シ



圓筒	活塞							用心機			
	擊室孔	擊室	包底面	外部(隆鼻部ノ頭部上面及兩側)	逆鉤鉤部	「ガス」壓	隆鼻部	平盤部	頭部	逆鉤ばね	逆鉤
擴大	反起腐蝕遺渣ノ膠着	缺損	軋痕ヲ生ズル場合	軋痕、磨滅	過大	凹子トノ接觸不具合	斜溝及準溝ノ反起、左右兩側孤削部ノ反起、打痕	磨滅、反起及打痕	磨滅	引鐵鉤部ノ缺損龜裂	
	一、雷管突破ヲ生ゼシム	一、擊室ヲ進出不能ニ陥ラシメ不發ヲ生ジシテ折損スルコトアリ	一、擊室ノ腐蝕ハ其密擊室ニ及ボスコトアリ	一、藥莢ノ保持不確實又ハ排出不良トナル	一、擊室ヲ進出不能ニ陥ラシメ不發ヲ生ジシテ折損スルコトアリ	一、後退不足ノ原因トナル	一、活塞隆鼻部基部ノ龜裂	一、活塞隆鼻部及前方突堤下部附近龜裂ノ原因トナル	一、「ガス」壓不足、 二、「ガス」ボンブレトノ間ニ軋リヲ生ジ後退不足ノ原因トナル又腐蝕ハ磨滅ノ基因ヲナス	一、單發機能不良	一、引鐵ノ軋リヲ生ズ 二、缺損セルモノハ分解不能ニ陥ルコトアリ

擊室	凹子		抽筒子室及同ばね脚室
	平盤部斜面	擊室	
凹子ト擊室	摺合セ適切ナラザル時	反起	擴大
	一、擊室折損及不發ノ原因トナル	一、雷管突破ヲ生ジ圓筒包底面及擊室室内ニ燒渣ヲ着シ不發ヲ生ズ	一、凹子ノ降下ヲ妨害シ不發ヲ生ズ
	二、圓筒ニ凹子ヲ結合シ降下ノ位置ニアラシメ、凹子ト擊室ニ挿入シ圓筒頭部ヲ下ゲル時擊室ハ凹子ニ障礙セラル、コトナク擊室ニ進入スルヲ要ス	二、擊室折損シ時トシテ全然活塞ノ後退セザルコトアリ	一、軋リヲ生ジ擊室後退不足ノ原因トナル

取扱及手入





抽筒子ばね		装填架		抽筒子	
ばね力ノ點檢法	ばねノ過長過強	爪部	駐子	装填架	装填架
尖端左角ノ削肉不足	缺損、劈滅	上下ノ動搖	機能不良	上下ノ動搖	上下ノ動搖
		反起、紙ノ突出	反起、紙ノ突出	反起、紙ノ突出	反起、紙ノ突出
		折損、變形	折損、變形	折損、變形	折損、變形
		誘導子ノ通路	誘導子ノ通路	誘導子ノ通路	誘導子ノ通路
		支彈ばね	支彈ばね	支彈ばね	支彈ばね
		壓桿ばね	壓桿ばね	壓桿ばね	壓桿ばね
		彈送止ばね	彈送止ばね	彈送止ばね	彈送止ばね
一、ばね力ヲ點檢スルニハばねヲ脚堂ニ挿入シ力ヲ用ヒズシテ右ニ廻シバねノ停止セル角度圓筒ニ對シ約十五度附近ニアルヲ要ス	一、折損ノ右角ハ分解上必要ニ付削去スベカラズ(ばねノ尖端ハ抽筒子ニ結合セル時〇、五耗後退シアルヲ要ス)	一、抽筒不良	一、射擊中裝填架左方ニ移動シ彈送坐變形突筒ト若賽平盤部斜溝ノ突角トニ打痕反起ヲ生ジ軌リヲ生ズ	一、僅少ナル場合ニハ蓋支ナキモ前後ノ動搖ハ彈送不良ノ原因トナル	一、挿筒子落下不良
			一、彈送不良	一、彈送不良	一、彈送不良
				一、突込ノ故障ヲ生ズルコトアリ	一、彈送不良
				一、彈送底ヨリ約四耗打上シアルヲ要ス	一、彈送不良
				一、運動中裝具等ニヨリ打上シ彈送坐左方ニ脱出ス又活塞ノ斜溝平盤部ニ反起ヲ生ゼシム	一、彈送不良

装弾機關		油槽		尾筒底		槓桿	
彈送(全部)		油導孔		復坐ばね軸		槓桿ばね	
一、變形突筒ノ反起損傷	二、誘導子頭ノ反起	閉塞セルモノ	衰損	衰損	衰損	衰損	衰損
三、下部彈送下方斜面ノ反起	四、上部彈送準梁ノ反起		衰損	衰損	衰損	衰損	衰損
五、誘導子ノ反起	六、階圓突筒ノ反起		衰損	衰損	衰損	衰損	衰損
七、上下部彈送ノ反起	八、誘導子ばねノ衰損セルモノ		衰損	衰損	衰損	衰損	衰損
彈送不良		油ノ流出不良ナル爲故障ヲ生ズ(時々手入ヲ必要トス)		ばねノ衰損ハ不發ヲ生ゼシム高射々撃ニ於テ特ニ然リ		ばねヲ屈曲セシムルノ原因トナル	
一、射擊中裝具等ニヨリ槓桿遊離スル爲活塞前進ノ終期ニ其ノ運動ヲ阻害シ擊室ノ衝擊不充分トナリ不發ヲ生ゼシムルコト多シ							

第二節 射擊前ノ手入及注意

第七十一 射擊前ニ於テハ第五十八ノ要領ニヨリ手入ヲ行ヒ特ニ腔中藥室ノ點檢ニ意ヲ用ヒ要スレバ丁寧ニ之ヲ拭淨シタル後薄ク塗油スベシ但シ機關部ニハ稍々多量ニ塗油スルヲ要ス  
空包射擊前ニアリテハ「スピンドル」油ト「ワセリン」又ハ「ベトロラクム」ト「スピンドル」油ノ混合油ヲ稍々多取及手入

十一年式輕機銃取扱上ノ參考  
量ニ塗油スルヲ可トス

六四

- 第七十二 射撃前主トシテ検査スベキ事項左ノ如シ
- 一、腔中藥室ニ異狀ナキヤ
  - 二、規整子ノ測合正シキヤ
  - 三、放熱筒尾筒ノ結合正シキヤ螺著不足ナルコトナキヤ極メテ危險ナルヲ以テ特ニ留意スベシ
  - 四、彈送止ハ確實ニ壓下シアルヤ
  - 五、安全栓ノ機能良好ナリヤ
  - 六、活塞ノ前進及後退ハ容易ニシテ軋ルコトナキヤ
  - 七、裝彈機關ノ運動正シク軋ルコトナキヤ
  - 八、復坐ばねハ折損若クハ衰損シアラザルヤ
  - 九、尾筒底駐栓ノ結合正シキヤ又駐子ノ活筒ノ機能良好ナリヤ
  - 十、裝填架駐子ノ機能良好ナリヤ
  - 十一、油槽内ニ油ヲ充シアルヤ又油導子ノ機能良好ナルヤ
  - 十二、機關部ノ塗油適當ナリヤ
- 第七十三 極寒時ニアリテハ前二條ノ外特ニ左ノ諸項ニ注意スベシ

- 一、手入ニ方リテハ不凍油ヲ用フルカ或ハ全然塗油ヲ拭淨スベシ
  - 二、射撃前ナルベク銃ノ保溫ニ注意スベシ保溫ノ方法トシテ毛布外套又ハ天幕等ヲ以テ包圍シ置クノ著意ヲ必要トス  
特ニ雨雪ノ時ニ於テ然リ
  - 三、射撃ニ先グチ必ズ空撃ヲ行ヒ撃發力十分ナリヤ否ヤヲ検査シ若過弱ナリト認メタルトキハ關係部品ノ異狀ノ有無  
抗力ノ適否手入ノ良否等ヲ檢シテ之ヲ處置シ撃發ニ支障ナカラシメ置クヲ要ス然ラザレバ實射ニ方リテ故障ヲ生ジ  
不覺ヲ取ルコトアリ
  - 四、射撃前活塞ノ進退圓滑ナルヲ確ムルヲ要ス若緩慢ナル場合ハ先ヅ槓桿ヲ以テ急遽ニ活塞ノ進退ヲ連續行ヒ活塞ノ  
進退方活潑トナリ撃發シ得ル程度ヲ認メ得ルマデ之ヲ反復シ要スレバ數發ノ單發射撃ヲ爲スベシ
- 第七十四 塵埃ヲ蹴リタル後射撃ヲ實施スル場合ニハ狀況之ヲ許セバ射撃直前ニ腔中ヲ拭淨シ特ニ銃口部ヲ點檢スルヲ  
要ス

### 第三節 射撃間ノ手入及注意

第七十五 射撃間ト雖モ機會ヲ求メ要スレバ一時射撃ヲ中止シテ手入ヲ行ヒ常ニ銃ノ機能ヲ完全ニ保持スル事ニ留意ス  
ルヲ要ス手入實施ノ要領ハ利用シ得ベキ時間ノ長短ニ應ジ異ナルモ主トシテ機能上故障ノ基因タルベキ要部ヲ檢シ發  
射ノ爲難液ノ附着異物ノ介在シ易キ部位ノ手入或ハ磨擦多キ部分ニ塗油スル等狀況ニ應ジ機敏ニ點檢手入ヲ行フヲ要  
ス

取扱及手入

六五

一、發射ノ爲儘渣ノ附着シ易キ部位

- 1、腔中藥室
- 2、銃身後端
- 3、圓筒包底面
- 4、擊 葦 室
- 5、活塞頭部
- 6、「ガスボンブ」内部
- 7、規 整 子

二、異物ノ介在シ易キ部位

- 1、藥 室
- 2、門 子 室
- 3、尾筒内部
- 4、彈 送 室
- 5、彈 送

第七十六 射撃間爆發ノ調子、肩ニ感ズル反動ノ強弱等ニヨリ機關部ノ運轉ノ状態ヲ察シ異狀ノ兆アル時ハ機敏適切ナル處置ヲナシ以テ故障ノ異加増大ヲ防止スルヲ要ス

第七十七 射撃間打發藥莖ノ蹴出状態ニ注意シ或ハ蹴出セラレタル打發藥莖ヲ點檢スルトキハ故障ヲ未然ニ發見シ得ルコトアリ

第七十八 極寒時ニ於テ塗油凝固ノ爲單發セザル場合ニアリテハ規整子分數ヲ大ニシテ連發シ得ルニ至レバ速カニ分數ヲ舊位ニ復スベシ

第七十九 被甲實包ヲ用ヒ腔中ノ除鉛ヲ行フヲ要スル場合ニアリテハ實包射撃ノ後後ニ引續キ銃身加熱シアル間ニ於テ速カニ連續二十發乃至三十發之ヲ發射スベシ

第四節 射撃後ノ手入及注意

第八十 射撃後ニ於ケル手入ノ良否ハ腔中ノ保存ニ影響スルコト大ナルモノアルヲ以テ手入ノ時機ヲ失セザルコト及其方法ヲ誤ラザルコトニ就テハ特ニ深甚ノ注意ヲ必要トス疲勞困憊セル時、雨雪天或ハ夜間射撃後等ニ於テ然リトス、射撃後ハ發錆ノ防止附着儘渣ノ除去ヲ容易ナラシムル爲メ直チニ腔中藥室ノ手入ヲ行フベシ若シ直チニ手入ヲ行フノ餘裕ナキ時ハ稍々多量ニ腔中油ヲ塗布シ儘渣ヲ浮出サシメ一時内部ノ發錆ヲ防止スルト共ニ爾後ニ於ケル手入ヲ容易ナラシムルヲ要ス

第八十一 射撃後ノ手入ハ左ノ要領ニヨリ行フ

一、腔中藥室

取 扱 及 手 入

1、洗滌液ヲ使用シ得ル時

イ、腔中洗滌液又ハ剛砂液ニテ洗滌ス

ロ、布片ニテ拭淨シ腔中ヲ點檢シ腔中油ヲ塗布シテ數時間乃至十數時間放置シ發錆ノ素因タル燻液等ヲ浮出サシメ布片ニテ拭淨ス

ハ、爾後布片汚損ノ狀況竝腔中ノ状態ヲ顧慮シ燻液ノ完全ニ除去シ得ルマデイ、ロ、ヲ反覆ス

ニ、燻液附着セザルニ至レバ保存ノ爲「スピンドル」油ヲ塗布ス

ホ、洗滌液ハ要スレバ下洗用、中洗用、上洗用等ノ數段ニ區分ス

2、洗滌液ヲ使用シ得ザル時

イ、腔中油ニテ拭淨ス（腔中油ヲ浸マセタル布片ヲ洗管ニ巻キ腔中拭淨）

ロ、前項ニ同シ

ハ、前項ニ同シ

ホ、「スピンドル」油塗布前ニ洗滌液ニテ洗滌ヲ行ヒ得ルニ至レバ前項ニヨル手入ヲ行フ

8、洗滌液及腔中油共ニ之ヲ有セザル等已ヲ得ザル時

イ、「スピンドル」油ニテ洗滌ス

ロ、爾後成シ得レバ前各項ニヨル手入ヲ行フベシ

4、射撃後直チニ手入ヲ行フ餘裕ナキ時

稍々多量ニ腔中油ヲ塗布シ一時發錆ヲ防止スルト同時ニ爾後ノ手入ヲ容易ナラシム

二、規整子

「ガスポンプ」ハ腔中藥室ノ手入ニ準ズ但シ「ガスポンプ」内部ニ燻液附着シ洗滌ニヨリ除去困難ナル時ハ「ガス」

搔ヲ使用スベシ此際各部ニ反起ヲ生ゼシメザル如ク注意スルヲ要ス

三、銃尾機關

活塞頭部、圓筒包底面擊莖室擊莖尖端等ハ直接強烈ナル「ガス」ヲ被ルヲ以テ腔中藥室ニ準ジ特ニ十分ナル手入ヲ行フベシ

四、其他ハ日常ノ手入ニ準ズ

第八十二 射撃實施後分解手入ヲ行フニ當リテハ各部品ニ損傷ナキヤヲ點檢スルコト必要ナリ特ニ其ノ機能上射撃ニ必

要ナル部位、銃尾機關裝彈機關ニ於テ然リ其ノ點檢スベキ部位左ノ如シ

一、銃尾機關ノ各部ニ偏磨ノ徵候ナキヤ

二、銃身後端面ニ圓筒若クハ抽筒子ノ衝痕ナキヤ

三、圓筒ノ鎖子ノ通路ニ反起ナキヤ、圓筒内部及擊莖室ニ反起ナキヤ、圓筒ニ龜裂ナキヤ

取 扱 及 手 入

- 四、放熱筒「ガスボンブ」ノ結合部ニ「ガス」漏レナキヤ
- 五、凹子ニ龜裂、反起等ナキヤ
- 六、擊重ニ打痕變形等ナキヤ
- 七、抽筒子爪部、抽筒子ばねノ損傷、衰損ナキヤ
- 八、活塞ノ隆鼻部、平盤部斜溝部ニ龜裂、打痕、反起等ナキヤ
- 九、各種軸、駐栓等異狀ナキヤ
- 十、圓筒通路附板ニ動搖反起ナキヤ
- 十一、彈送止ばね衰損シアラザルヤ
- 十二、誘導子段部ノ缺損誘導子室ノ龜裂開大ナキヤ
- 十三、彈送坐誘導孔ニ龜裂反起ナキヤ
- 一、二、四、ハ手入ヲ初ムル前ニ十一ハ分解前ニ點檢スルヲ要ス

### 附 録

## 十一年式輕機關銃三脚架乙

### 總 説

第一 十一年式輕機關銃ヲ裝著シテ伏射高ヨリ膝射高ニ至ル間隨意ノ射高ヲ得シムルト共ニ射撃ノ操作ヲ容易ナラシム  
又高低角約三十度以下ノ對空射撃ヲ實施シ得

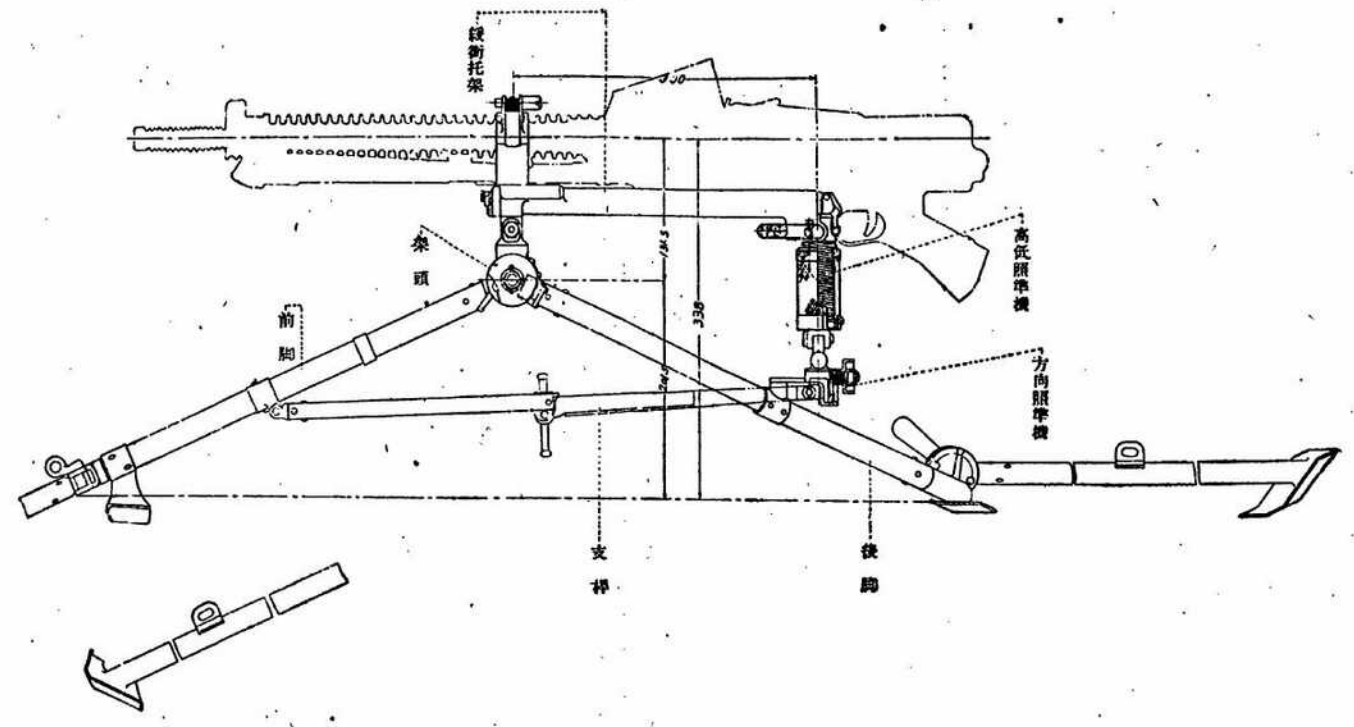
第二 必要ナル諸元ノ中一部ヲ舉グレバ左ノ如シ

射 角	俯仰各々	五度
方向射界	左右各々	三分畫五十
射撃姿勢	平射姿勢	三十三種八
	高射姿勢	七十八種





乙架脚三統開機輕式年一十  
面側體全



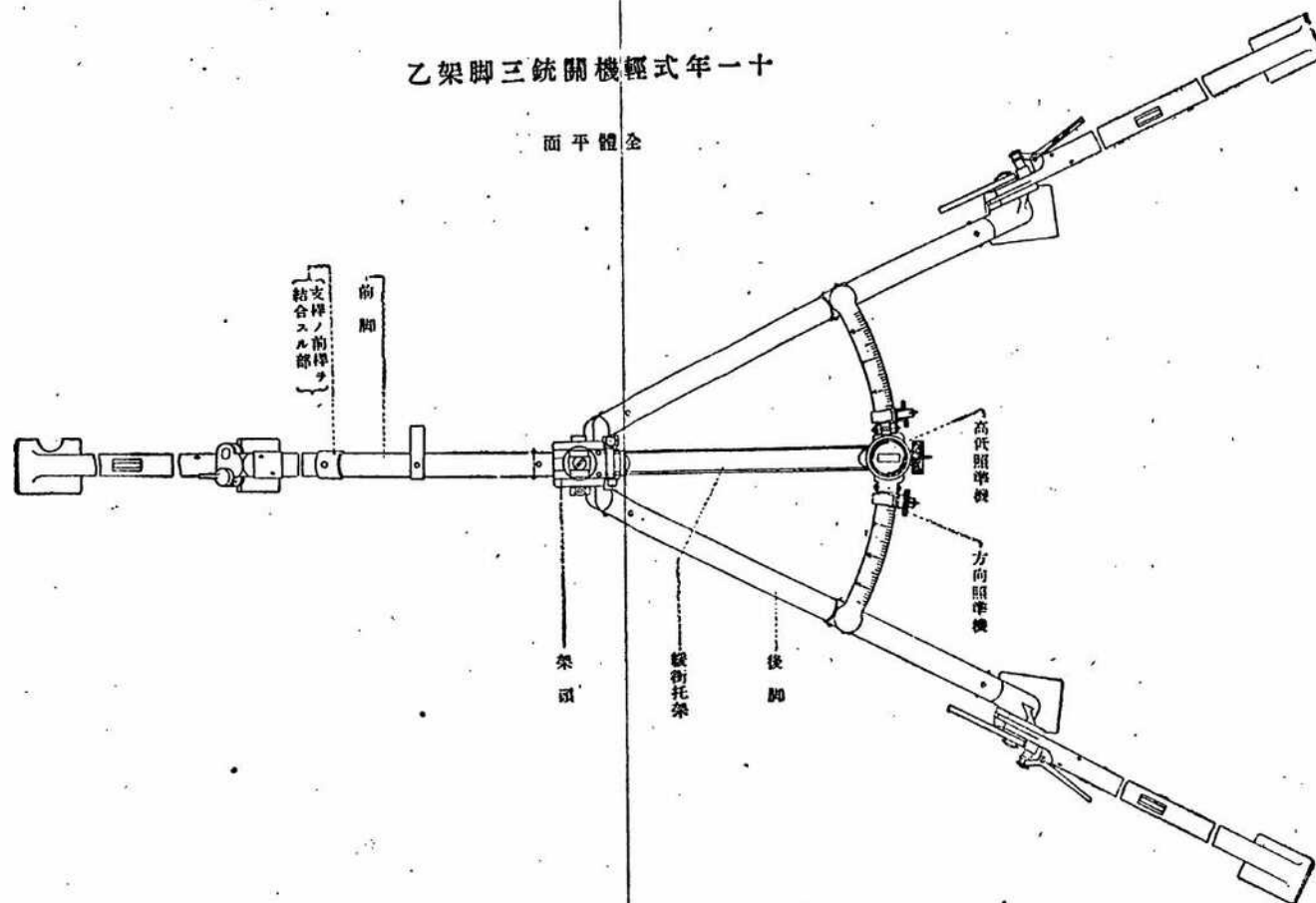
裏面白紙





乙架脚三銃機輕式年一十

面平體全



裏面白紙

# 第一章 構造機能

第三 緩衝装置ヲ有スル三脚架ニシテ緩衝托架、架頭、高低照準機方向照準機前脚及後脚（折疊式）ヨリ成リ支桿及提  
革ヲ附屬ス

第四 緩衝托架 緩衝托架ハ左ノ部品ヨリナル

銃 坐

銃 尾 托 坐

緩 衝 ば ね

高 射 緩 衝 ば ね

高 射 緩 衝 ば ね 軸

銃 坐 托 筒

第五 銃坐及銃尾托坐 銃坐後端ニハ銃尾托坐ヲ結合シ共ニ銃坐托筒内ニ收容セラル銃坐ノ前端ハ放熱筒ノ後部ヲ銃尾

托座ハ用心臓ノ前端ヲ支ヘ銃坐托筒内ヲ進退シ後坐衝力ヲ緩和ス

第六 緩衝ばね 銃坐托筒ノ後部ニ收容セラレ銃坐托筒ノ段部及銃坐中央ノ段部ニ支ヘラレ平射撃ニ於ケル後坐衝力

ヲ緩和ス

第七 高射緩衝ばねハ高射緩衝ばね軸後端及銃坐前端ニ支ヘラレ高射緩衝ばね軸ヲ駐止装置トナシタル際緩衝ばねト共

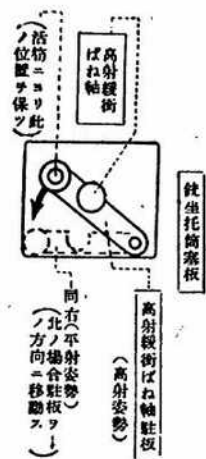
ニ高射撃ノ後坐衝力ヲ緩和ス

附 録

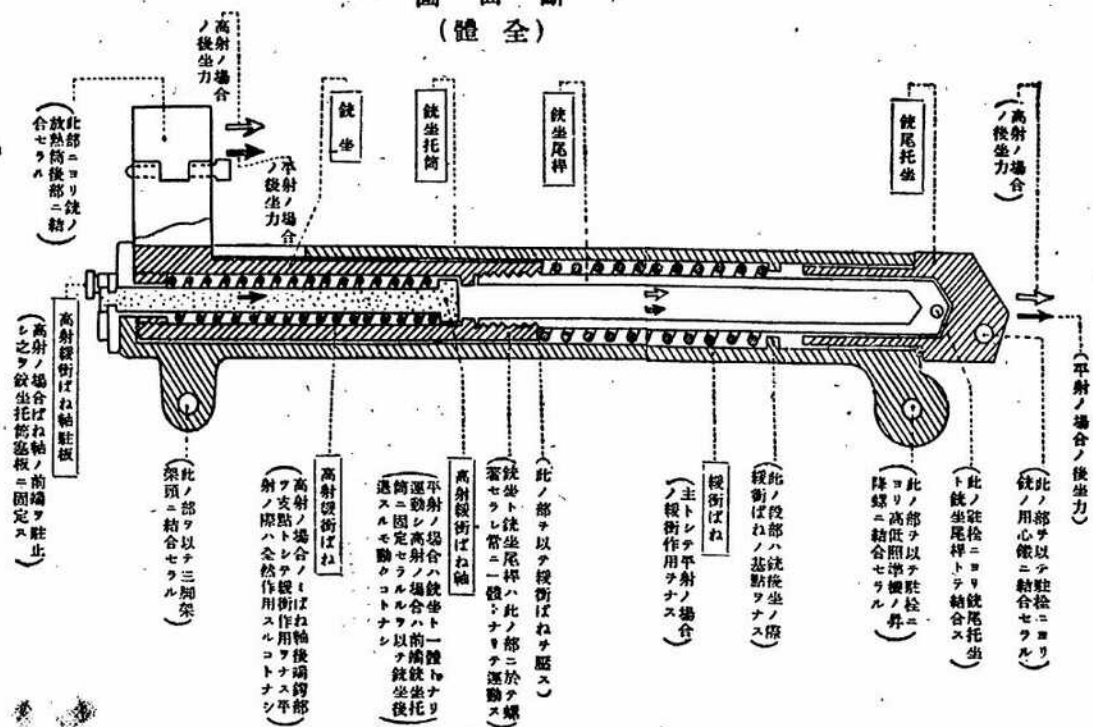


緩衝架托構造能要領

前視圖  
(托筒前端部)

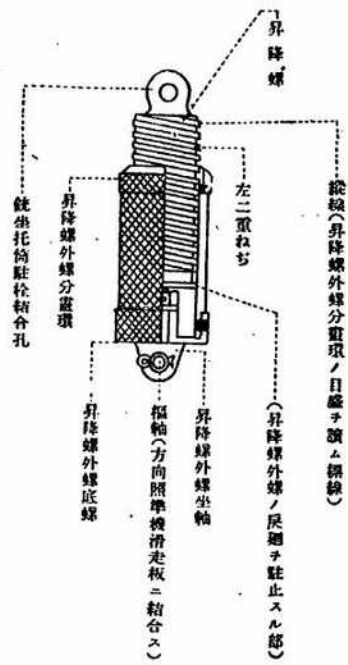


断面圖  
(全體)

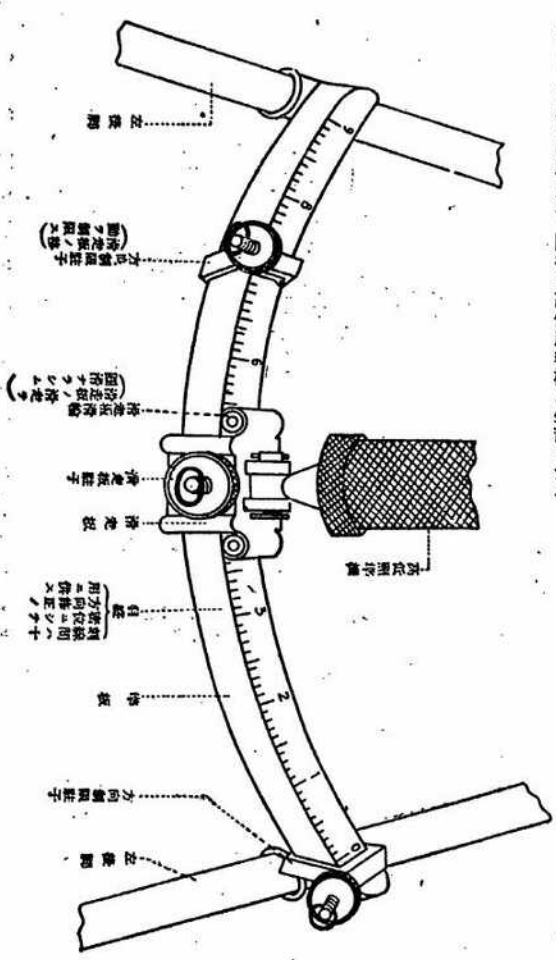




第八 高低照準機 昇降螺、昇降螺外螺ヨリナリ外螺ノ旋回ニヨリ射角ヲ附與ス



附  
録

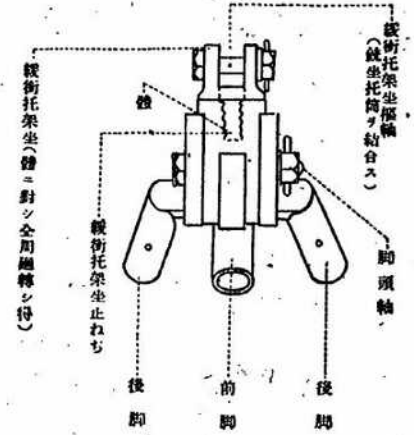


第十一年式経緯儀三脚架乙  
第九 方向照準機 準板、滑走板、方向制限装置ヨリナリ銃ニ對シ方向角ヲ附與シ兼ネテ支撐ノ坐部ヲナシ又後脚上桿ノ開キヲ一定ニ固定シ更ニ間接ニ高低照準機ノ坐部ヲナス

七六

第十 架頭體、緩衝托架坐、脚頭軸ヨリ成リ前脚、後脚及緩衝托架ノ銃坐托筒ヲ結合ス

前視見取圖



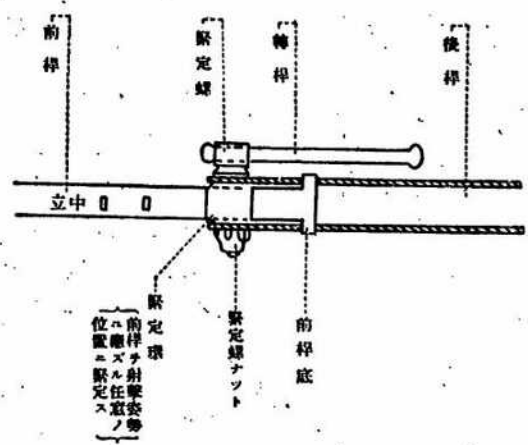
附 七六

七七

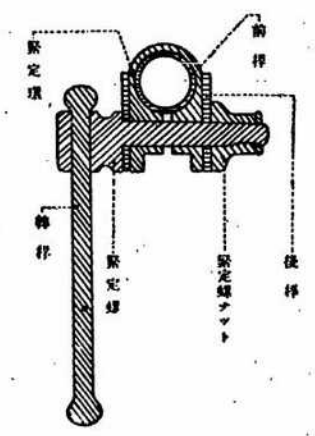




十一 年式輕機銃三脚架乙  
 第十二 支桿 前桿 緊定螺 後桿ヨリナリ前脚ト方向照準機トヲ連結シ各種射撃姿勢ニ於ケル開脚ヲ緊定保持スルノ  
 用ニ供ス



前桿後桿緊定環及緊定螺斷面圖



八〇

## 第二章 取扱及手入

### 第一 取扱上ノ注意

- 一、銃坐ニ銃ヲ結合スルニ方リテハ用心鐵ノ部ヨリ結合シ次ニ放熱筒ヲ結合スルヲ要ス結合後ハ確實ニ銃坐蓋駐子ヲ押し駐鈎ヲ確實ニ鈎シ置クコト最モ必要ナリ
- 二、緩衝托架、銃坐托筒、前脚、後脚ハ薄肉ノ鋼管ナルヲ以テ注意シテ取扱フヲ要ス特ニ關節部ハ愛護スベシ即必要以外ニ伸縮ヲ繰返シ緊定ヲ緩メズシテ折疊作用ヲ行フ如キハ戒ムベキコト、ス
- 三、後脚ノ折疊時旋回途中分解箇所ニ於テ後方ニ離脱シ旋回困難ナルコトアリ此ノ場合ニ於テハ脚ヲ前方ニ挿入シ旋回スベシ然ラザレバ關節部ヲ破損セシムル懼レアリ
- 四、平射ニ於テハ高射緩衝装置トセザル様注意スベシ高射ヨリ平射ニ變換シタル場合ニ於テ其注意ヲ必要トス平射ヨリ高射ニ移シタル場合亦之ニ準ズ

### 第二 射撃上ノ注意

- 一、慣桿ヲ引クニ方リテハ右手ヲ以テ銃把ヲ確實ニ握リ緩衝ばねノ衰損ヲ來サザルコトニ注意スルヲ要ス
- 二、射撃ニ方リテ右手ノ銃把ノ持方及左手ノ昇降螺ノ保持不確實ナルトキハ發射ノ震動ニヨリ左右ニ振レ命中不良トナルヲ以テ確實ニ保持スルヲ要スねぢ部結合部ノ弛ミタル脚ニ於テ然リトス
- 三、支桿ノ緊定ニ方リテハ前桿ト後桿トヲ一直線トナシタル後緊定スルヲ要ス然ラザレバ射撃間ニ弛ミ銃坐低下スルコトアリ

附 錄

八一



# 十一年式輕機關銃取扱上ノ參考

昭和十三年八月十五日印  
昭和十三年八月廿二日發  
昭和十七年三月二十日第百二十三版

十一年式輕機關銃取扱上ノ參考

定價 金 參 拾 錢

## 陸軍步兵學校

千葉市作草部町

陸軍步兵學校將校集會所

代表者 石井 星 一 郎

千葉市作草部町

陸軍步兵學校將校集會所

東京市麹町區九段一丁目五番地

横山 才 四 郎

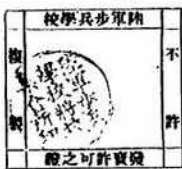
東京市麹町區九段一丁目五番地

財團法人 軍人會館印刷所

東京市麹町區九段一丁目五番地

財團法人 軍人會館圖書部

電話九段四一〇〇番一四一〇九番  
築地口産東京二〇〇七番



取扱所

